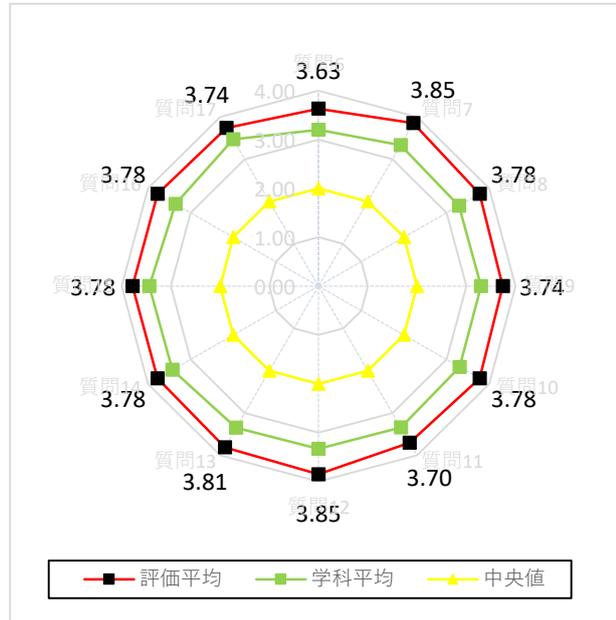
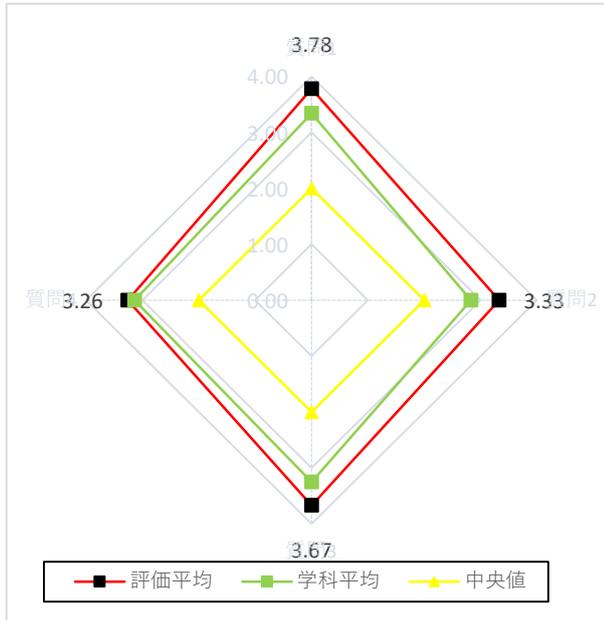


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		基礎演習あすなろう	39名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

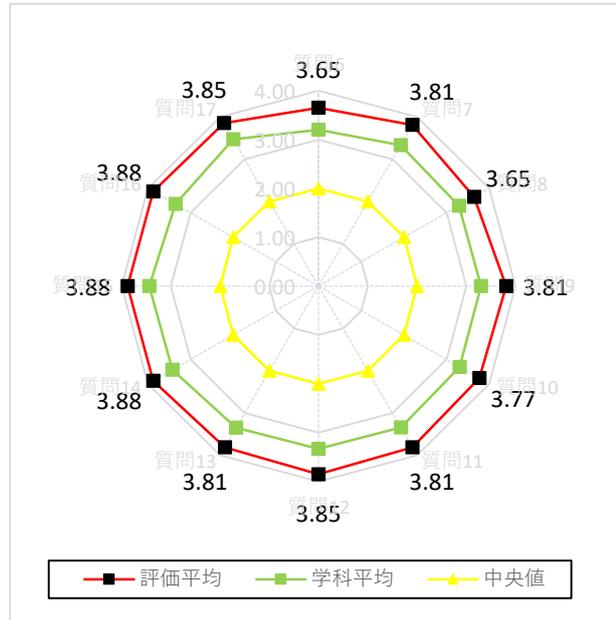
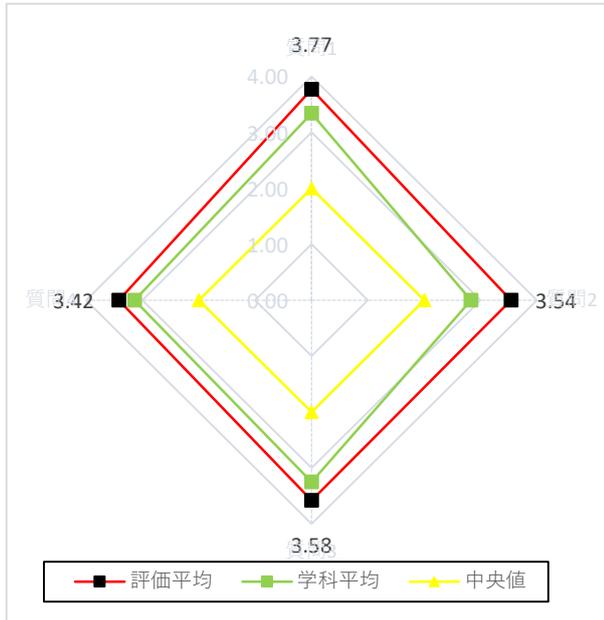
概ね平均点を上回っている。

### (3) 次年度に向けての取り組み

講義をよりスムーズに進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		あすなろう体験 I (基礎)	39名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

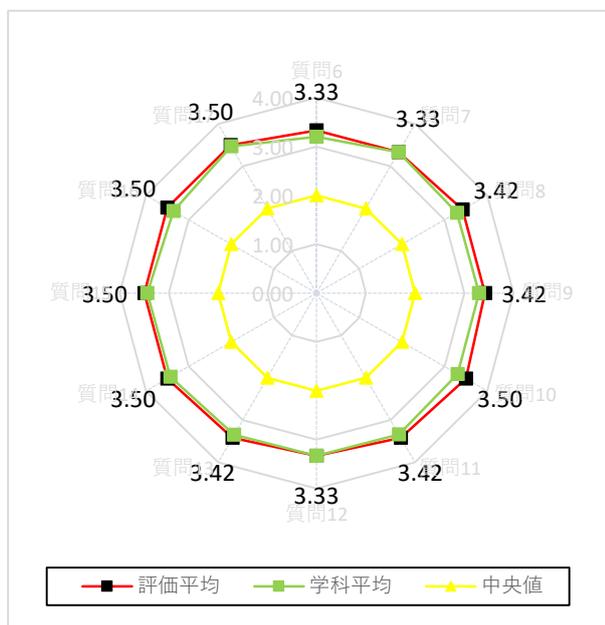
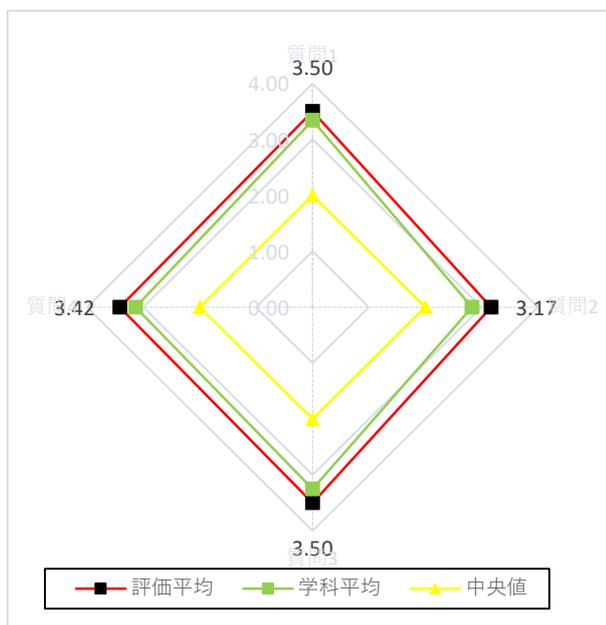
概ね平均点を上回っている。

### (3) 次年度に向けての取り組み

講義をよりスムーズに進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		総合英語 I	27名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

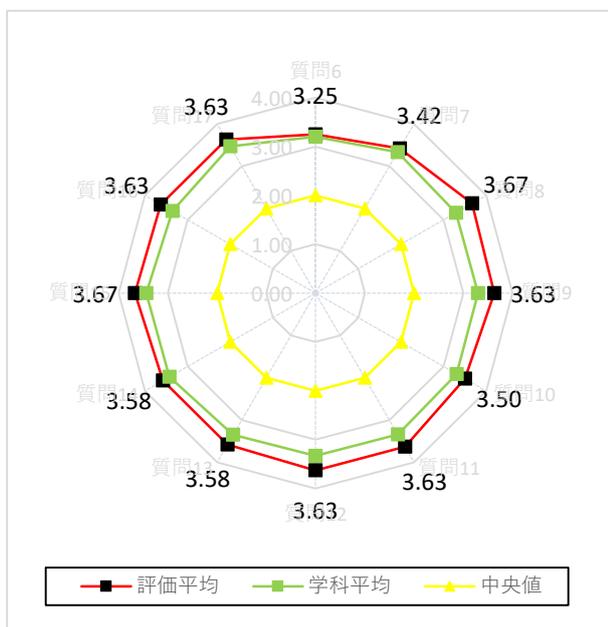
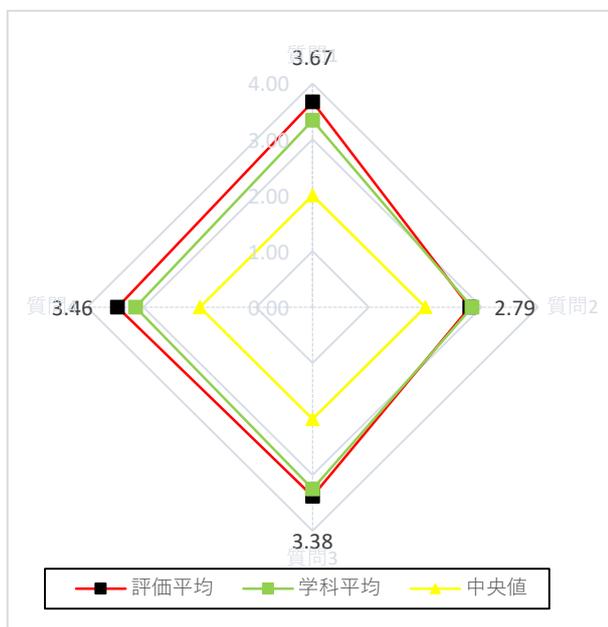
平均よりいい結果と思います。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度この科目はないですので、取り組みありません。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		英語表現 I	29名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

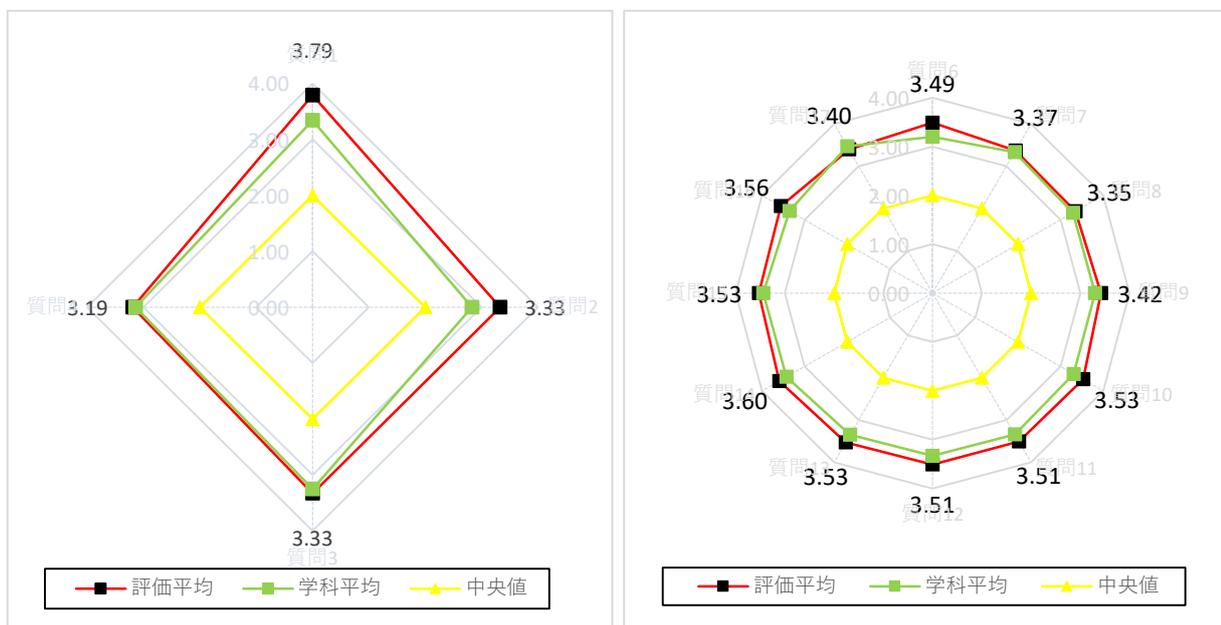
平均と同じもしくは平均以上の結果です。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度この科目はないですので、取り組みありません

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		健康・スポーツ科学	77名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

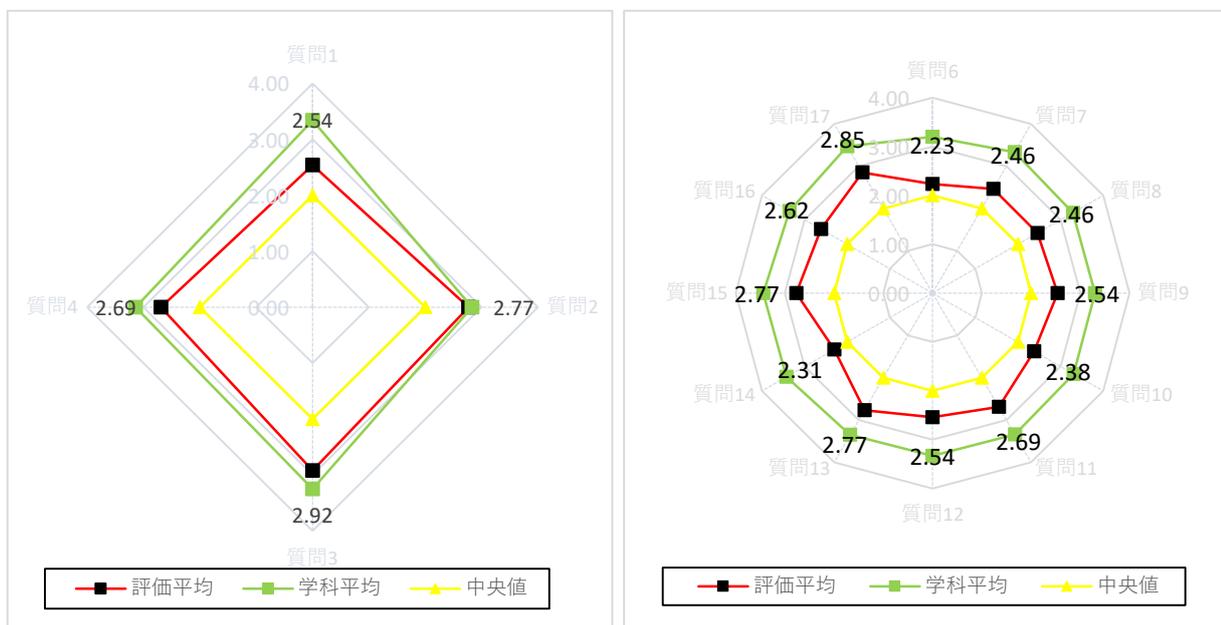
- ・ 学科平均との比較：全質問項目は、ほぼ平均である。
- ・ 授業目標及び授業内容・方法：授業は最新のスポーツ医・科学研究を紹介して健康の維持増進に寄与する目的で、可能な限りパワーポイントを使用して説明するとともに、毎回の授業において学習したキーワードを提示し220字以内でまとめる小レポート作成を義務づけた。授業中の質問に関しては、次回の講義冒頭に全員に対して解説を行った。
- ・ 授業全般に対する反省点：授業に関するプリント等の資料内容の改善を行いたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 授業内容・方法の改善については、日常生活で身近な健康に関連する内容を主として、学生自身の健康問題と捉えさせることで興味・関心が持てるようにするとともに、事前学習が可能なようにするために教材プリントの工夫をしたい。授業では、高校時代の理科の履修状況を考慮して、健康スポーツ科学用語を可能な限り平易な言葉として伝える工夫を更に行いたい。
- ・ 多人数教育は解消すべきと考えるが、授業の進め方を工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		栄養学	20名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

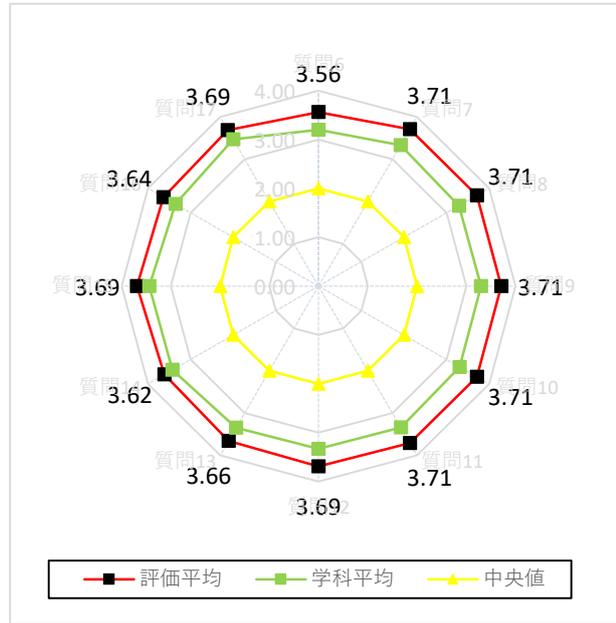
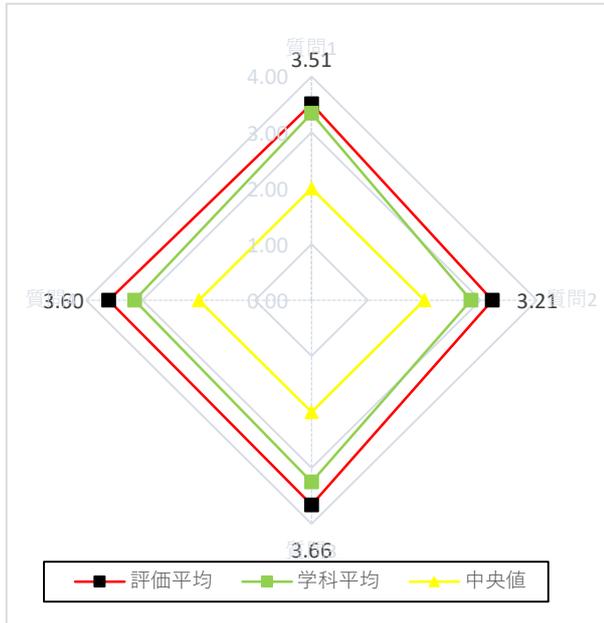
栄養学の授業評価においては、質問1から4までの学生自身の取り組みの項目、質問6から17までの教員の側の項においても4点満点のうち、2.5強の項目がほとんどであった。この結果は、学生自身も関心が高くなく、興味をもたせることも不十分であったと感じる。栄養学はリハビリテーション学部の専門基礎科目の中の基本科目として選択科目となっている。前年度までにおいては、受講生が少ないために不開講であったと聞いており、リハビリを専門とする学生にとっては関心の薄い内容のようだった。理由は不明であるが20名の学生が受講したが、満足度を高めることができなかったのは残念である。

### (3) 次年度に向けての取り組み

栄養学の授業評価においては、各質問項目のほとんどにおいて、学生の興味関心が低い傾向にあった。一つの原因として過去に使用されていたテキストが、リハビリを学ぶ学生にとって適していない感があった。次回においてはテキストを用いずに、学生の興味や関心が高まること、管理栄養士と職場において協働していく上で役立つ知識を得られる内容にしていきたいと思う。映像などの視聴覚資料を取り入れたり、パワーポイントや板書などにおいても、学生が作業しながら理解を深めていけるように工夫したいと考えている。職場において管理栄養士と協働するための基礎知識を得られるように、次年度は改善したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		解剖学 I	95名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

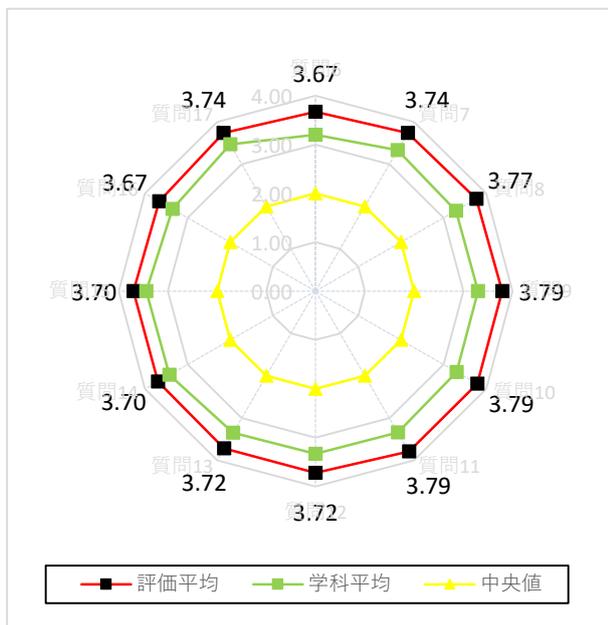
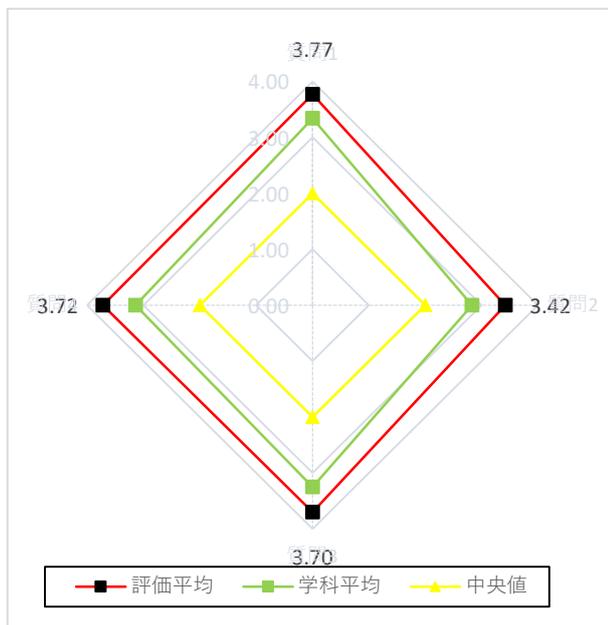
概ね、学科平均の近似値であった。  
 今後も学生に理解しやすい講義に努めていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

解剖学は一方通行の講義が主になるため、なかなかつたわりにくい部分もある。  
 動画を使用して記憶に残る講義にしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		解剖学Ⅱ	83名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

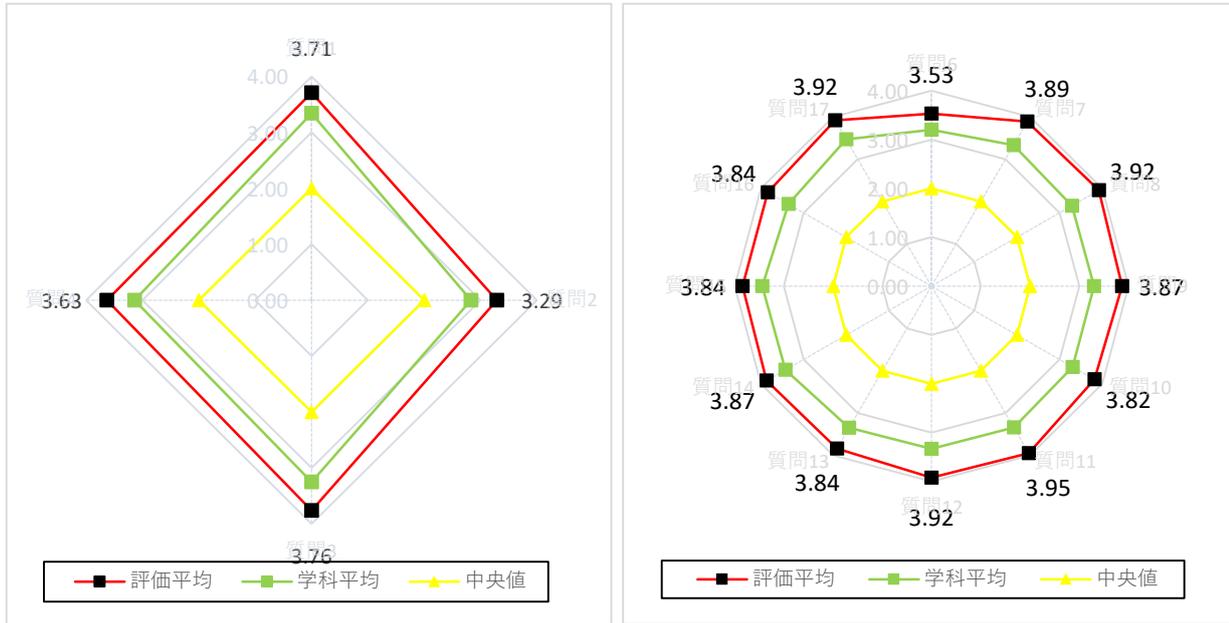
概ね、学科平均点以上の評価を得た。  
 今後も維持できるよう講義工夫に努めたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

解剖学Ⅰ同様、一方通行の講義内容となるため、動画など使用して理解しやすいよう努めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		体表解剖学実習	40名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

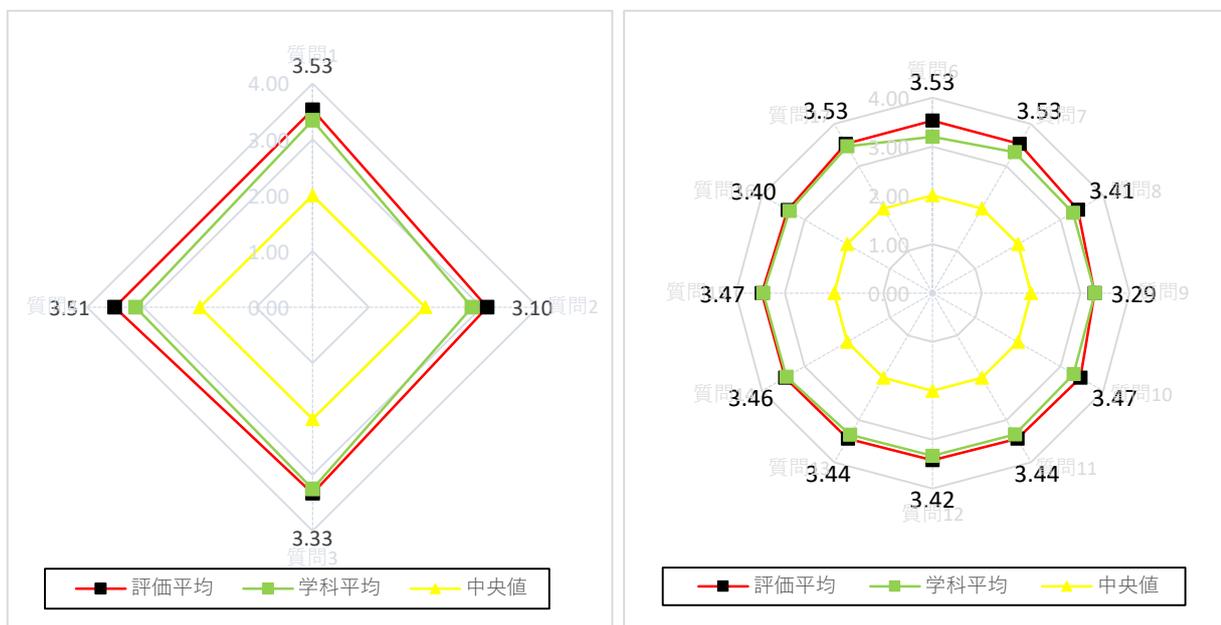
本講義は実技中心であり、学生からすると飽きない内容であるため、このような評価を得たのではないかと考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

筋肉や骨など体表から触る講義なので、セクハラなど考慮しながら講義を進行する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学	97名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

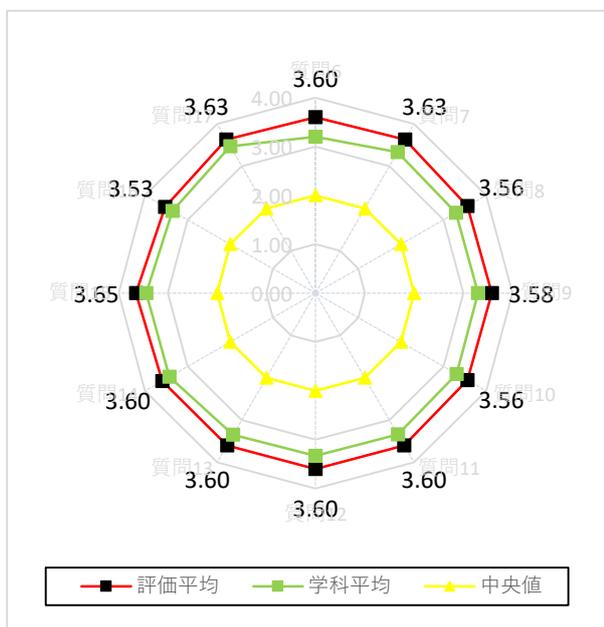
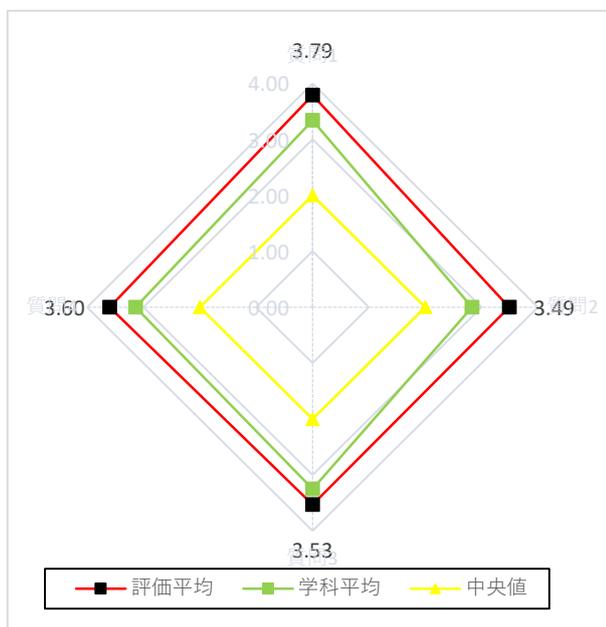
評価平均点は概ね学科平均である。質問9が平均点を下回っており講義理解度の向上が求められている。

### (3) 次年度に向けての取り組み

分かりやすい講義にするための工夫が必要である。  
その他の項目に対しても評価向上のため、内容を吟味し講義に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生理学演習	92名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

概ね平均点を超えている。  
理学療法学専攻と作業療法学専攻の平均点に大きな差があり、理解度の違いを実感した。

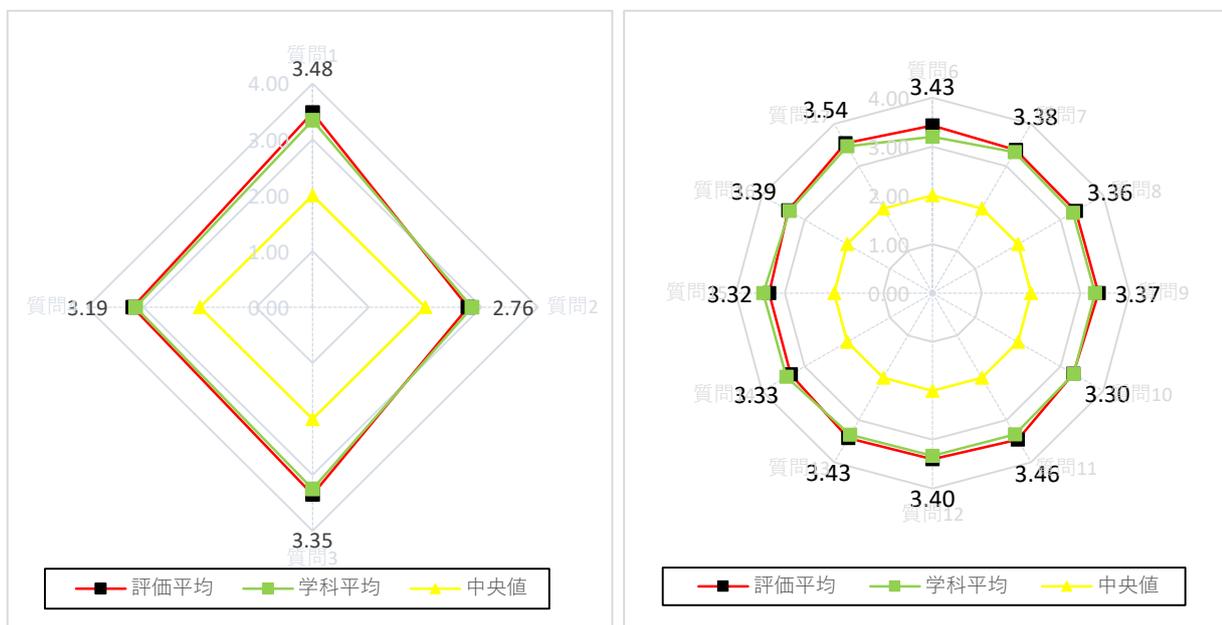
### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度は理学療法学専攻と作業療法学専攻で合同講義となるため、学生の理解度に応じた講義内容が求められる。さらに工夫が必要である。

作業療法学専攻の学生コメントで「早口になることがある」とあり、今後気を付けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		人間発達学	91名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

理学療法士・作業療法士になるために重要な必修科目である。教育学的側面・心理学的側面など幅広い知識を修得する必要がある。本科目は入学後すぐに始まるため、まずはノートを取り方やプリントの活用方法などを逐一指導しながら講義を進めた。シラバス以外に授業計画について紙媒体で配布し、授業進行により変更があった場合はその都度修正させた。そのためシラバスを活用出来たという意見が出た。また、再履修生を指導する時間が取られたことは反省点である。学修意欲のある学生に魅力ある授業・対応をしていく必要がある。

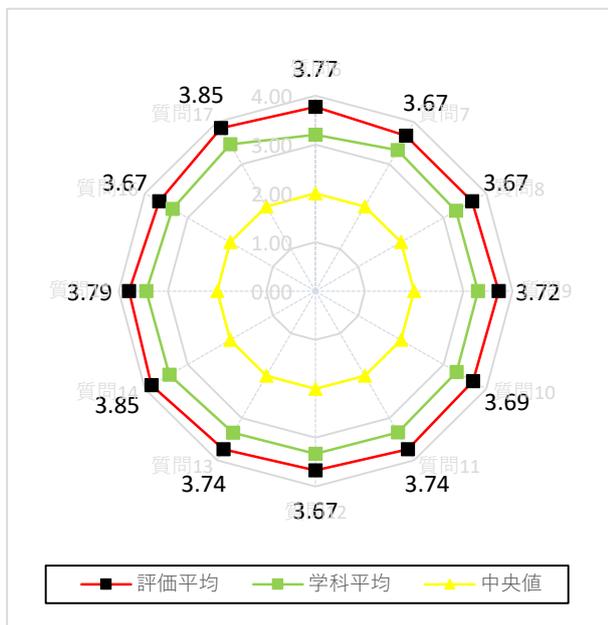
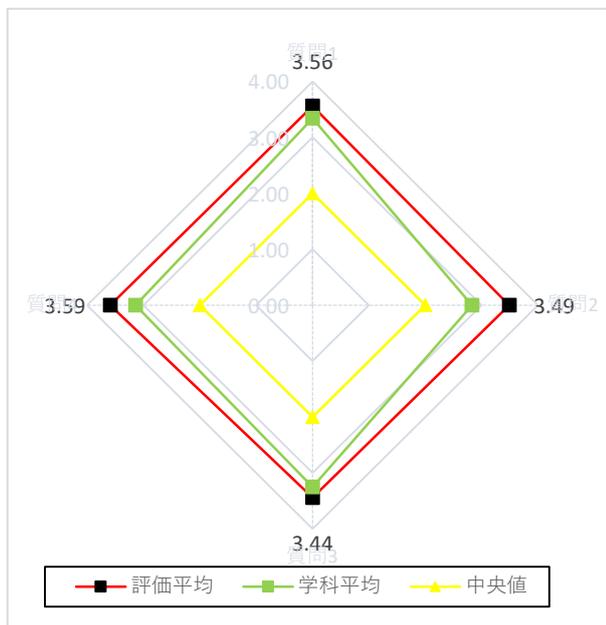
### (3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの活用について、講義初回に説明を行う。また国家試験の重要項目である、運動発達・発達検査・反射反応についてイメージしやすいよう具体的な映像などを紹介するよう心がけ理解を深めていく。また、質問については質問カードを配布し記載させることで理学療法・作業療法合同講義でも質問しやすい環境を提供するようにする。

理学療法士・作業療法士を目指す学生が赤ちゃんの不思議に興味を持ち、今後の学修に意欲を持って取り組めるよう支援していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学 I	43名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

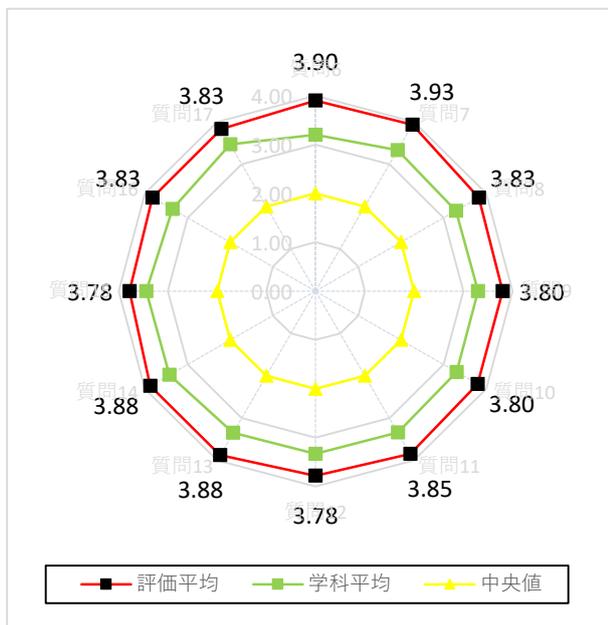
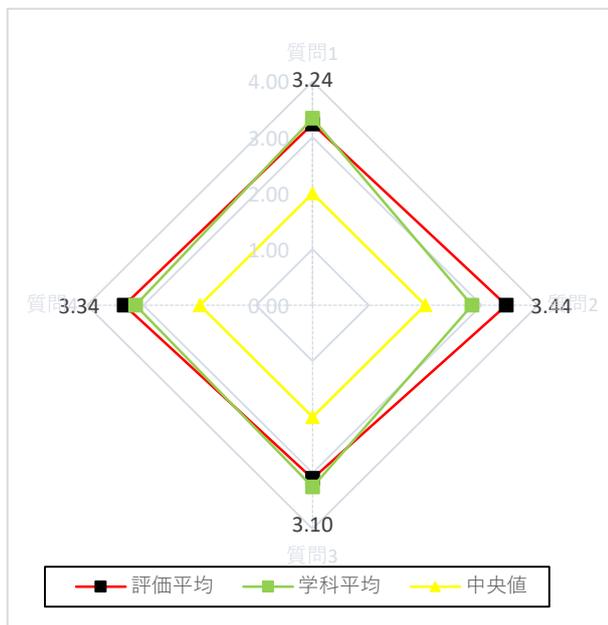
全般的に良好の結果が得られた。  
 質問6から17までに関して、どの質問項目も学科平均を上回ったため、講義手法は比較的に間違っていないと思われる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、講義手法をよりブラッシュアップさせ、学生が理解しやすい内容にしたいと考える。  
 アクティブラーニングを取り入れにくい座学であるが、積極的に取り入れていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学Ⅱ	45名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

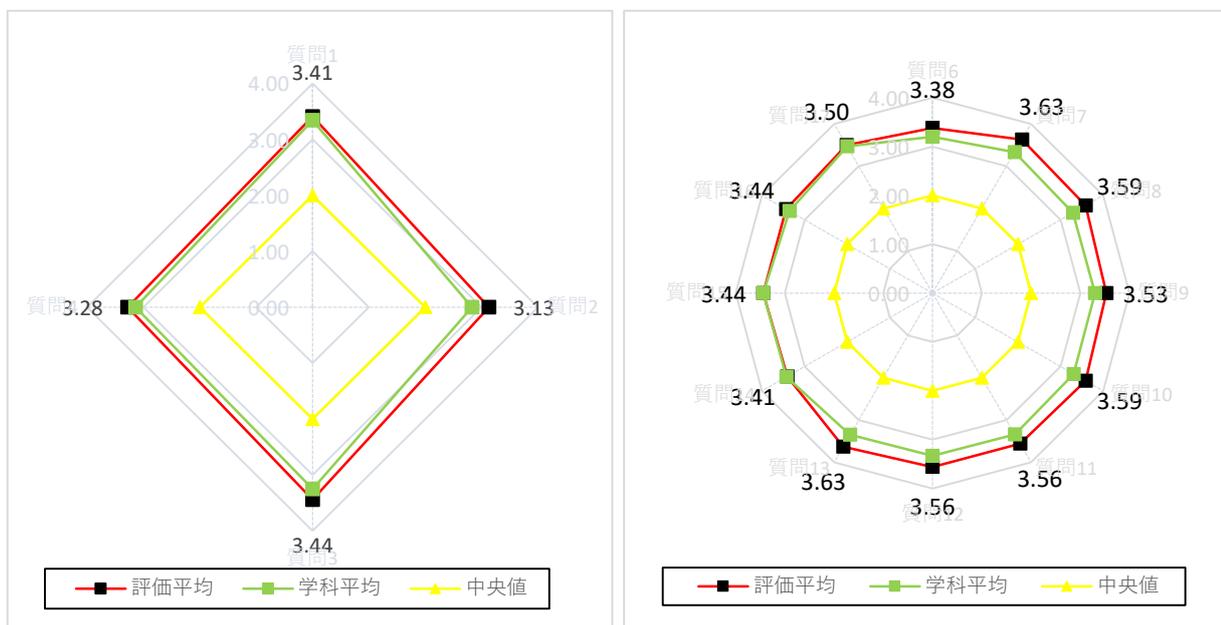
全般的に良好の結果が得られた。  
 質問6から17までに関して、どの質問項目も学科平均を上回ったため、講義手法は比較的に間違っていない  
 かったと思われる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、講義手法をよりブラッシュアップさせ、学生が理解しやすい内容にしたいと考える。  
 アクティブラーニングを取り入れにくい座学であるが、積極的に取り入れていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動学実習	50名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

総合評価は、 $3.45 \pm 0.78$  (4点満点) であった。

評価が低かった項目は、質問2のシラバスを活用したか ( $3.13 \pm 0.98$ 点)、質問4の理解を深めるために自分で工夫したか ( $3.28 \pm 0.85$ 点) であった。

評価が高かった項目は、質問7の到達目標を明確にしていたか ( $3.63 \pm 0.71$ 点)、質問13の授業の進む速さ ( $3.63 \pm 0.71$ 点) であった。

中間調査で実施した自由記述のアンケートによると、機器を使用した測定が楽しいとか、自分の体のことを知ることができて楽しい等、実技形式の講義が高評価であることが伺える。

一方で、レポート課題や先行研究の論文を要約するなどの作業が、要求するレベルを高く設定していることもあり難しいとのコメントもあった。

アンケート結果から、学生は、シラバスを確認して講義内容を把握しようと努めたり、理解を深めるための工夫をしていないことから、積極的に知識技術の獲得を図ろうとしているように見えない。また、自由記述によるアンケート結果からも調べ学習に苦手意識があることがわかる。

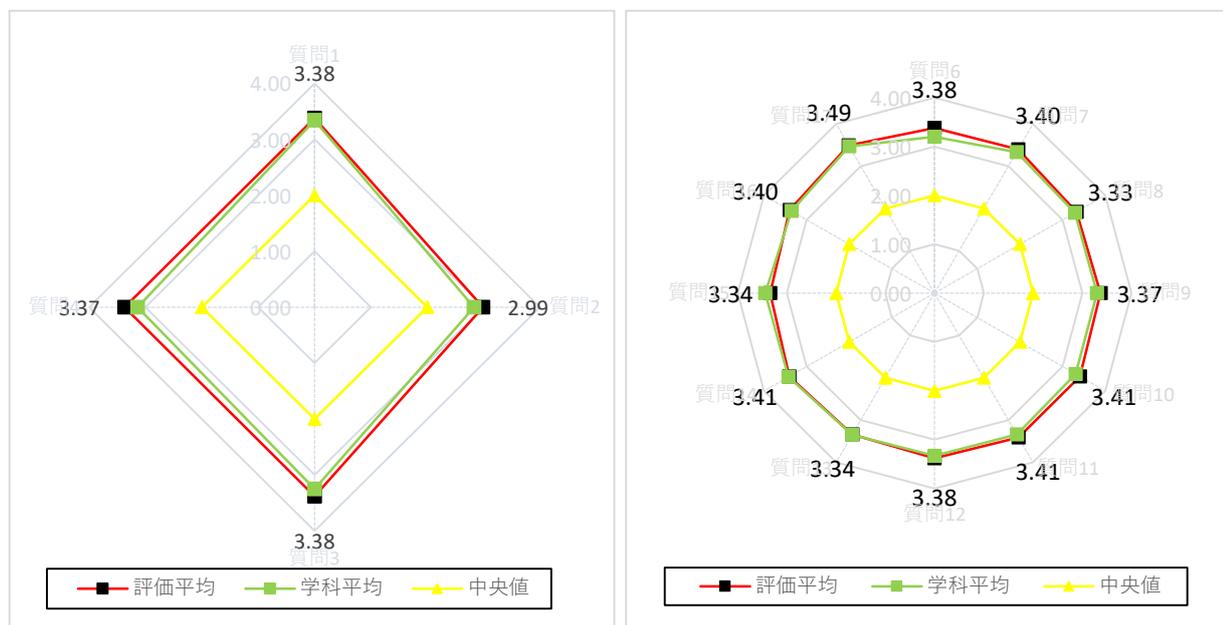
### (3) 次年度に向けての取り組み

実技を実施した後の調べ学習およびレポート課題の提出により、どんなことを学修してほしいのか到達目標を明確に、かつ毎回の講義で説明をしていきたい。

また、これまではレポートの採点基準に採点結果を記入してから返却をしていただけだったが、返却時に丁寧なfeedbackを入れる方法で、個別指導を加えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内科学 I	103名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

内科学Iは内科学の総論であり、リハビリテーション学科2年生において初めての臨床医学系科目の一つであるため、学生にとって難易度は高いと考えられる。

そこで前期の内科学Iでは、1年生で学んだ生理学・解剖学・公衆衛生学などの知識を確認しながら、ゆっくり丁寧に進行するよう努めた。

医学専門用語に慣れさせるとともに、小テストによる確認作業を丁寧に実施した。学生一人一人が授業に参加し考える習慣をつけてもらうために、学生にもテキストを音読させたり、小テストの答えを発表させ、間違えることを恐れずに発言するよう助言した。

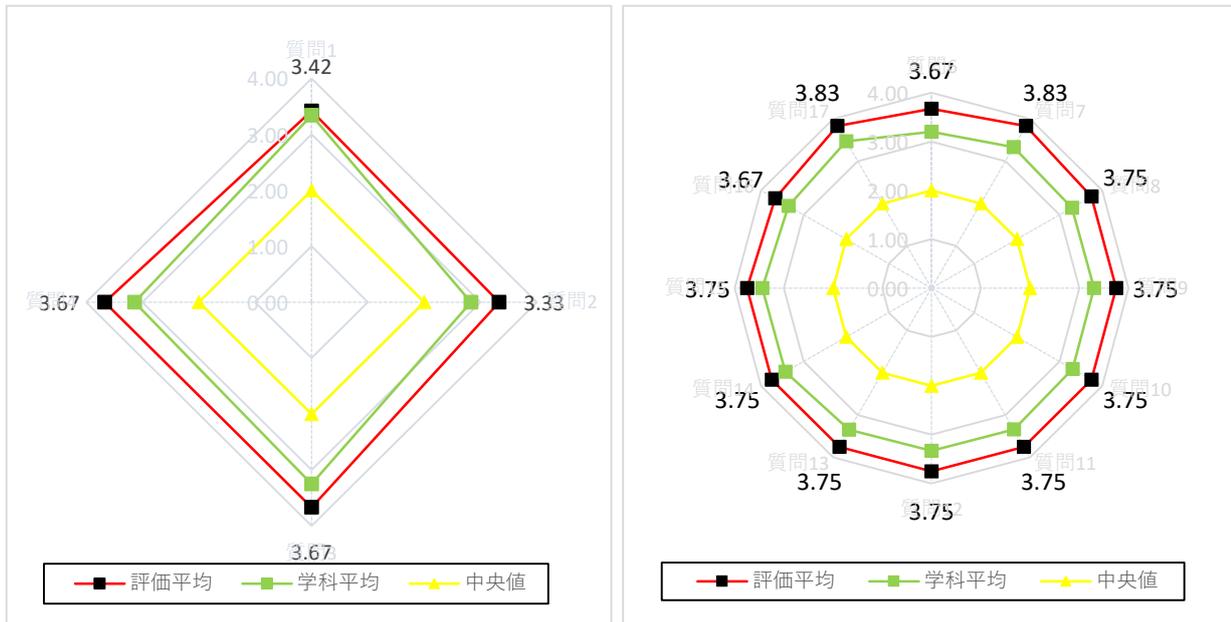
ほとんどの学生の受講態度は真面目だったが、一部の学生において不真面目な態度・私語・欠席・早退などが例年より多く認められたため、学生全体をコントロールすることに大きなエネルギーが必要であった。シラバスについては初回授業時に一括してスライドを使って説明しているが、進行状況によってシラバス通りには行かない場合も当然ながら発生するため、授業ごとに当日の到達目標や次回の予定を伝えるように心がけた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今年度も学生一人一人の特性を把握するように努めつつ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内科学II	97名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

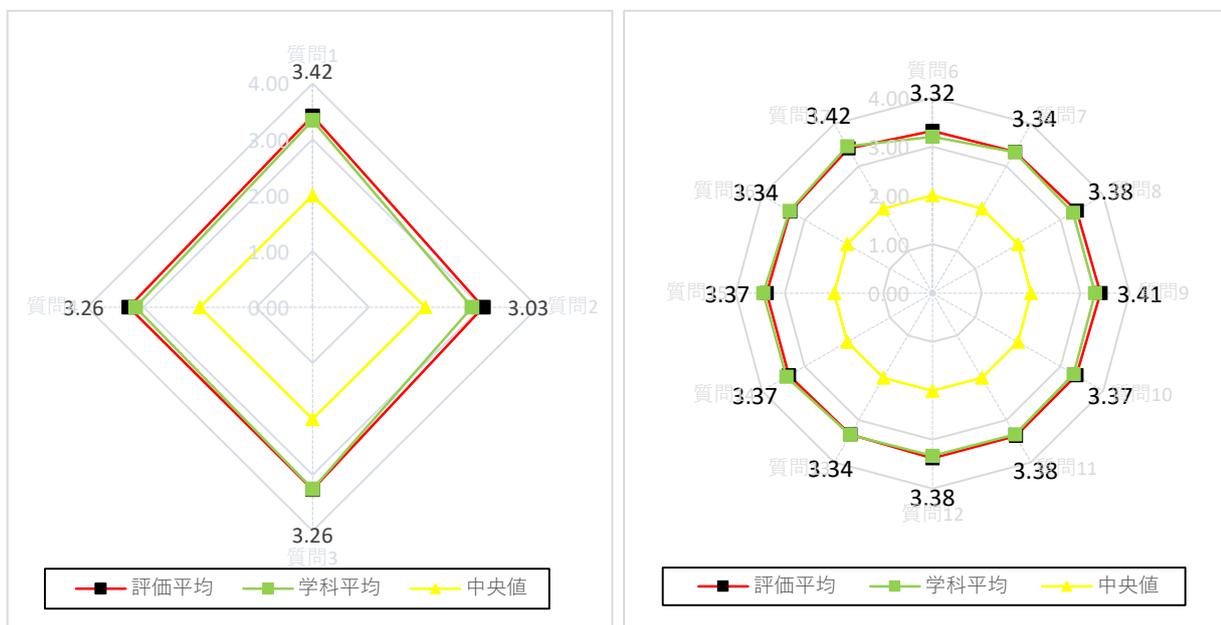
内科学II（後期）は各論となるため、臨床や国試における主要疾患について、判りやすい説明を心がけながら、国家試験問題にも解答できるよう練習を行った。  
 前期に比べて、学生の授業態度も改善が認められ、クラス全体で授業に参加する雰囲気が認められるようになった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今年度も学生一人一人の特性を把握するように努めつつ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		整形外科学 I	103名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

整形外科学Iは総論であり、リハビリテーション学科2年生において初めての臨床医学系科目の一つであるため、学生にとって難易度は高いと考えられる。

そこで前期の整形外科Iでは、1年生で学んだ生理学・解剖学・公衆衛生学・運動学などの知識を確認しながら、ゆっくり丁寧に進行するよう努めた。

医学専門用語に慣れさせるとともに、小テストによる確認作業を丁寧に実施した。学生一人一人が授業に参加し考える習慣をつけてもらうために、学生にもテキストを音読させたり、小テストの答えを発表させ、間違えることを恐れずに発言するよう助言した。

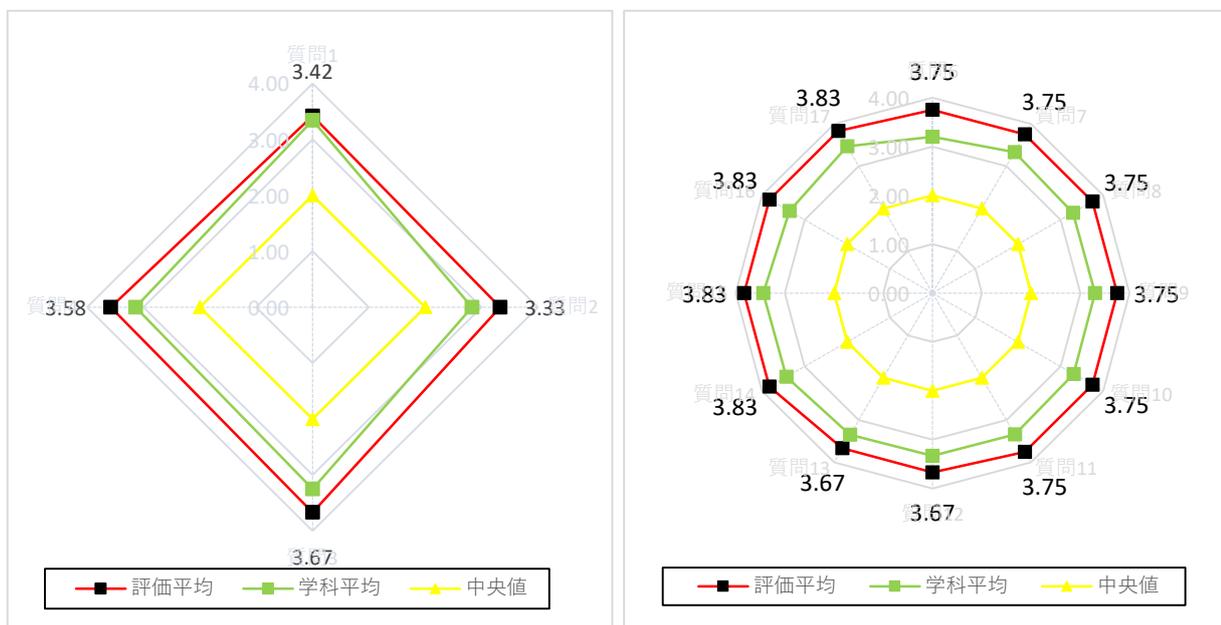
ほとんどの学生の受講態度は真面目だったが、一部の学生において不真面目な態度・私語・欠席・早退などが例年より多く認められたため、学生全体をコントロールすることに大きなエネルギーが必要であった。シラバスについては初回授業時に一括してスライドを使って説明しているが、進行状況によってシラバス通りには行かない場合も当然ながら発生するため、授業ごとに当日の到達目標や次回の予定を伝えるように心がけた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今年度も学生一人一人の特性を把握するよう努めつつ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		整形外科科学Ⅱ	97名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

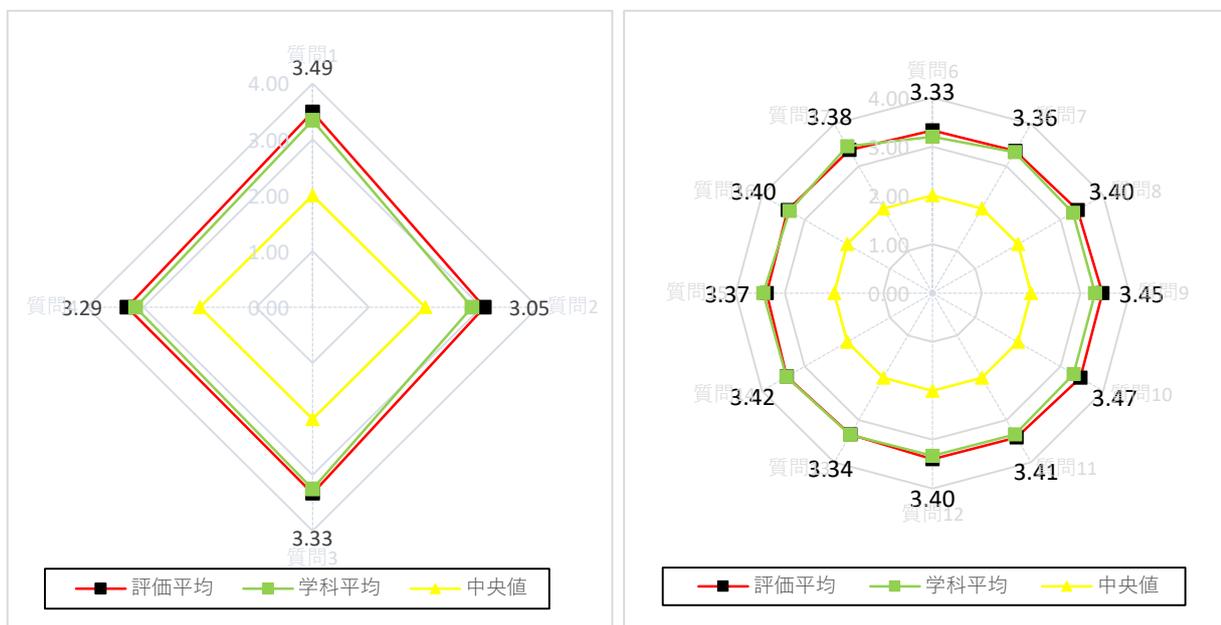
整形外科科学Ⅱ（後期）は各論となるため、臨床や国試における主要疾患について判りやすい説明を心がけながら、国家試験問題にも解答できるよう練習を行った。  
 前期に比べて、学生の授業態度も改善が認められ、クラス全体で授業に参加する雰囲気が認められるようになった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今年度も学生一人一人の特性を把握するように努めつつ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経内科学 I	103名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

神経内科学Iは総論であり、リハビリテーション学科2年生において初めての臨床医学系科目の一つであるため、学生にとって難易度は高いと考えられる。

そこで前期の神経内科学Iでは、1年生で学んだ生理学・解剖学・公衆衛生学・運動学などの知識を確認しながら、ゆっくり丁寧に進行するよう努めた。

DVD動画を2回ほど活用し、学生の理解を助けるよう工夫した。

医学専門用語に慣れさせるとともに、小テストによる確認作業を丁寧に実施した。学生一人一人が授業に参加し考える習慣をつけてもらうために、学生にもテキストを音読させたり、小テストの答えを発表させ、間違えることを恐れずに発言するよう助言した。

ほとんどの学生の受講態度は真面目であったが、一部の学生において不真面目な態度・私語・欠席・早退などが例年より多く認められたため、学生全体をコントロールすることに大きなエネルギーが必要であった。

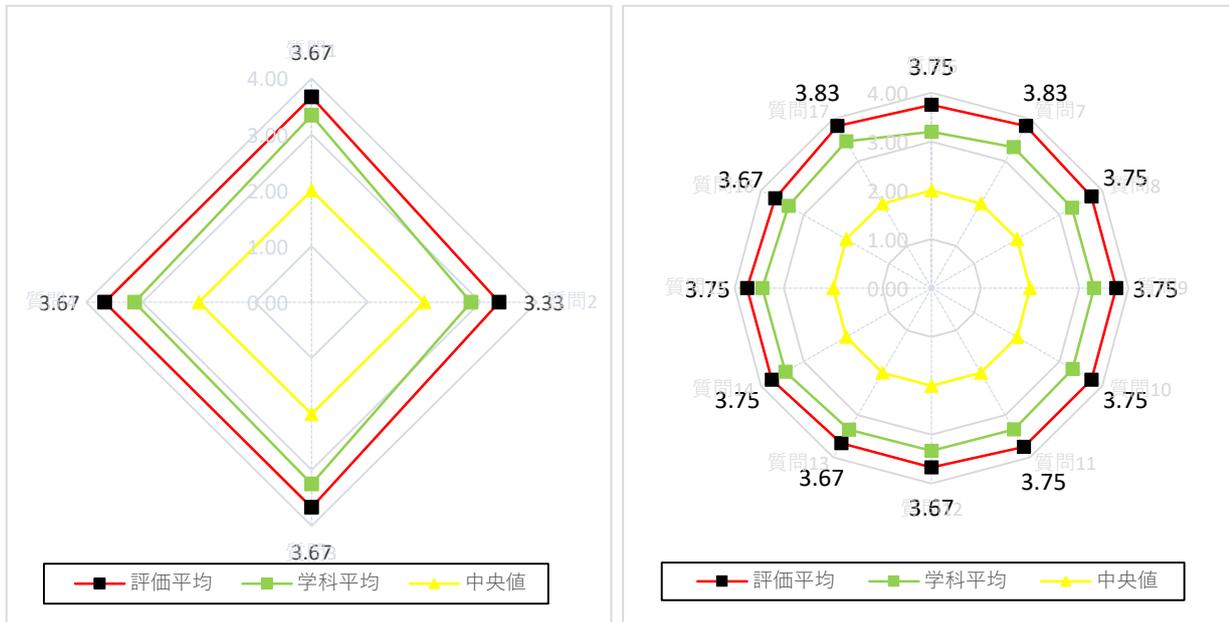
シラバスについては初回授業時に一括してスライドを使って説明しているが、進行状況によってシラバス通りには行かない場合も当然ながら発生するため、授業ごとに当日の到達目標や次回の予定を伝えるように心がけた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今年度も学生一人一人の特性を把握するように努めつつ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経内科学Ⅱ	97名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

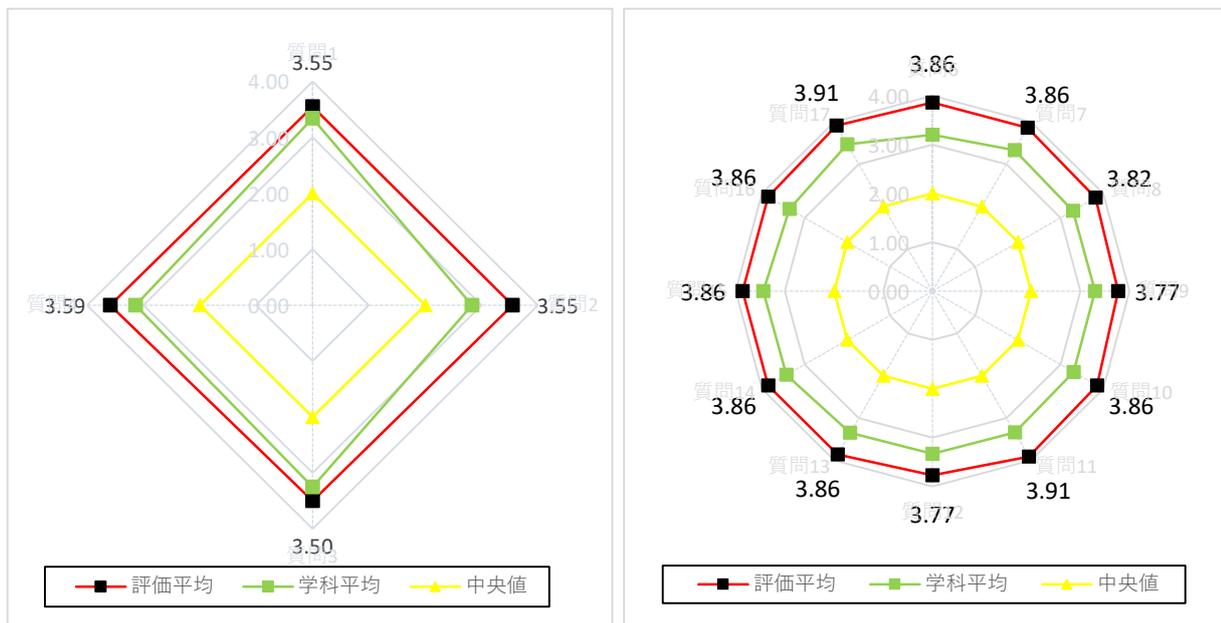
神経内科学Ⅱ（後期）は各論となるため、臨床や国試における主要疾患について判りやすい説明を心がけながら、国家試験問題にも解答できるよう練習を行った。  
 前期に比べて、学生の授業態度も改善が認められ、クラス全体で授業に参加する雰囲気が認められるようになった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今年度も学生一人一人の特性を把握するように努めつつ、クラス全体として学力を伸ばしていけるように、心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		画像診断学	49名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

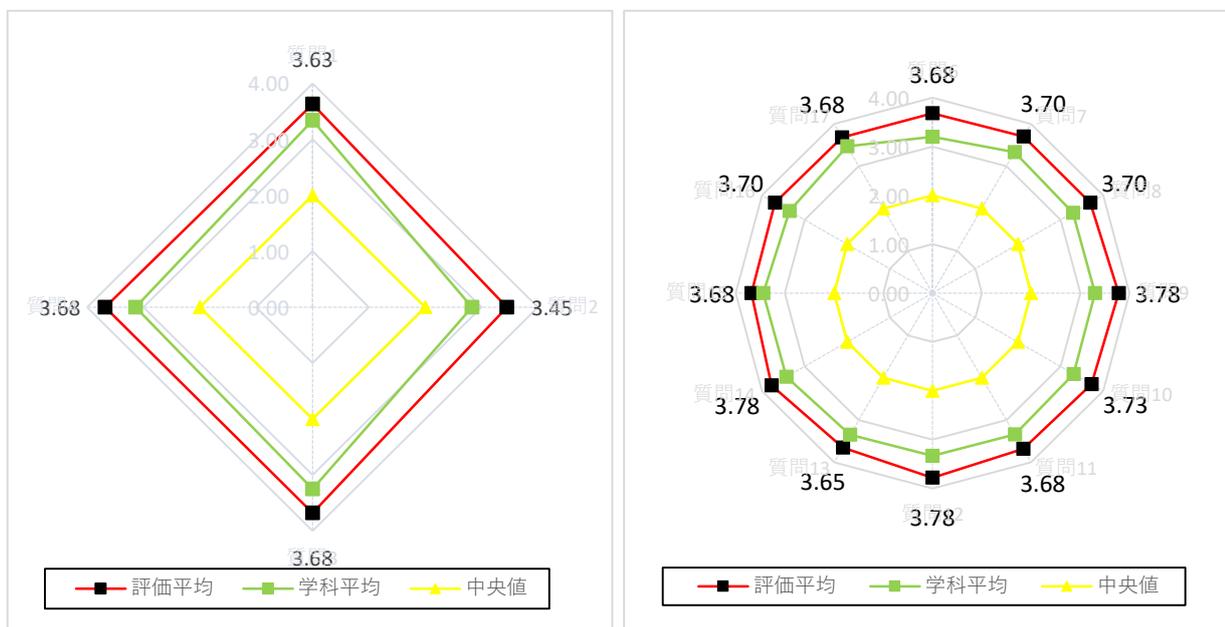
全般的に良好の結果が得られた。  
 質問6から17までに関して、どの質問項目も学科平均を上回ったため、講義手法は比較的に間違っていないと思われる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、講義手法をよりブラッシュアップさせ、学生が理解しやすい内容にしたいと考える。  
 アクティブラーニングを取り入れにくい座学であるが、積極的に取り入れていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		安全管理運営学	42名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

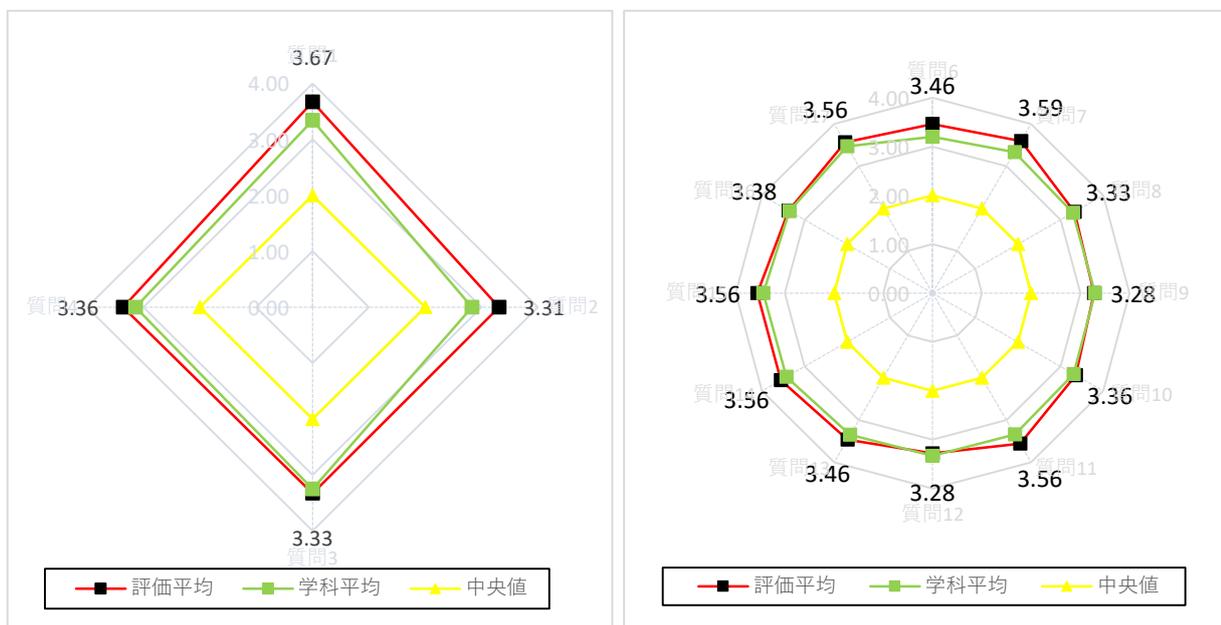
2年次から4年次に開講時期を変えた効果が著明で、半年後には自らが向き合う内容のため、学生は真剣に取り組んでいると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、学生が実習中に経験したこと、困ったことなども聞いて、みんなで考える場を提供し、より臨床で役立つ科目にしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		リハビリテーション概論	40名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

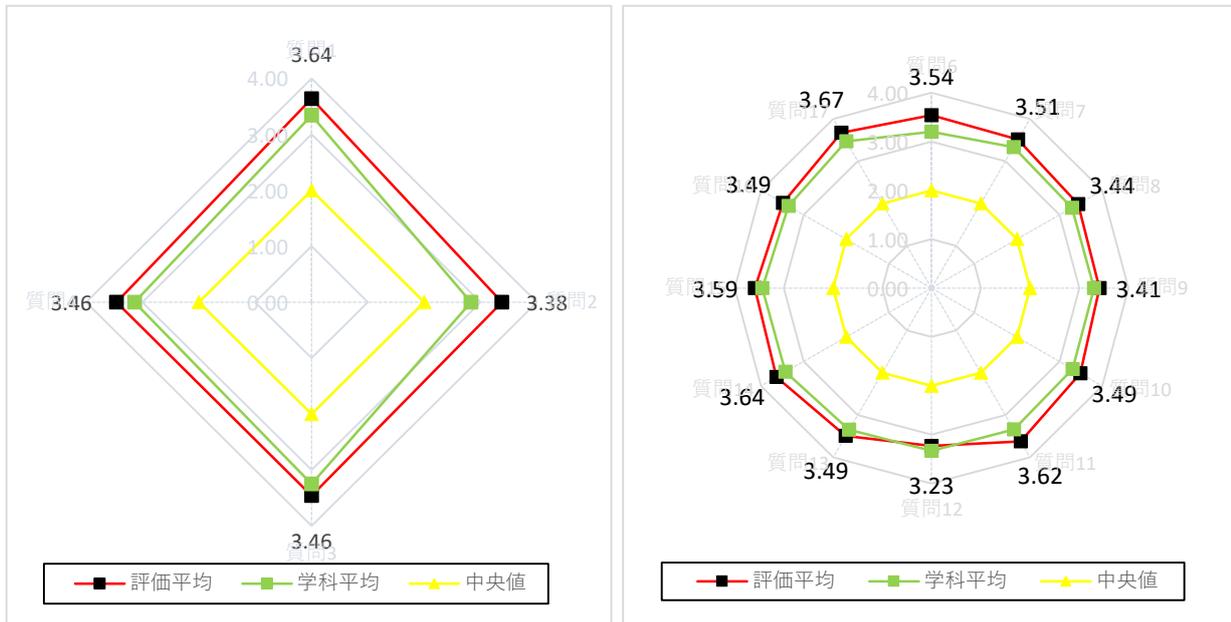
声の大きさ・明瞭さに関しては、きちんと聞き取れているか頻回に確認する必要がある。概論はどうしても広く浅く抽象的な内容になりやすいので、実際の例などを適宜紹介していたが、十分には伝わっていない感じである。

### (3) 次年度に向けての取り組み

前回の講義内容の復習テストを毎回実施しているが、必ずしも成果が出ていない。次年度は、授業の終わりに簡単なポイント整理をするつもりである。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法学概論	42名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

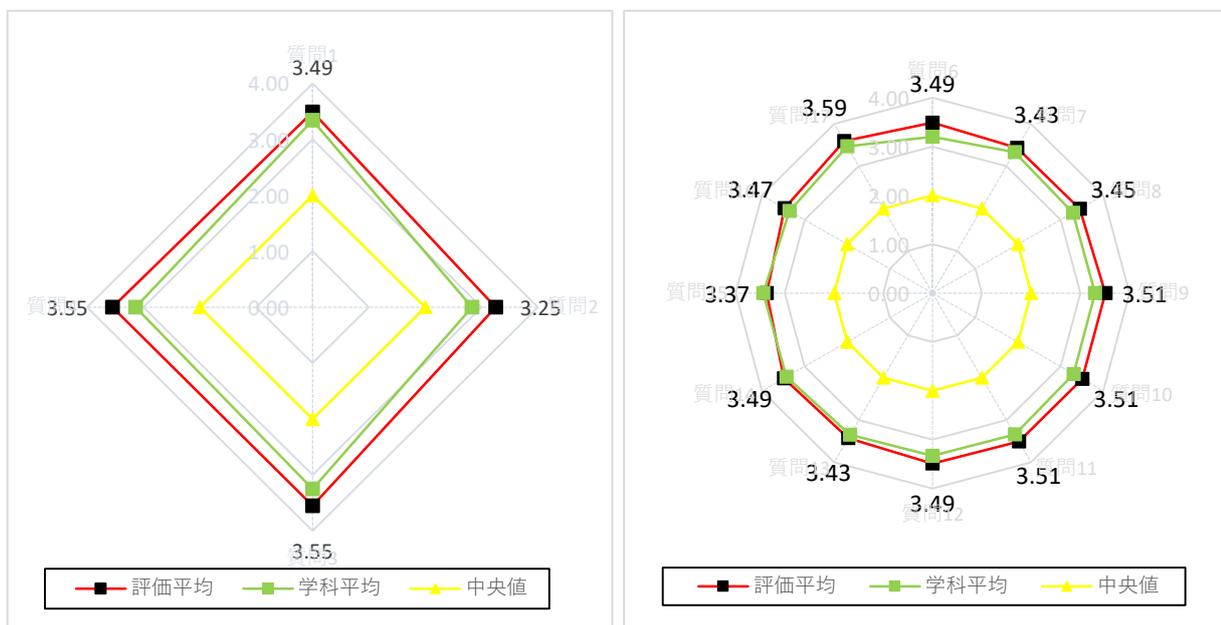
声の大きさ・明瞭さに関しては、耳管開放症のため自分の声をモニターできないのが影響していると考えられる。適宜確認する必要がある。

### (3) 次年度に向けての取り組み

来年度は教科書を変更し、臨床をよりイメージできるように講義内容にしていく予定である。グループ学習を取り入れ、学生がアクティブに授業に参加できるように工夫したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法総合演習	55名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

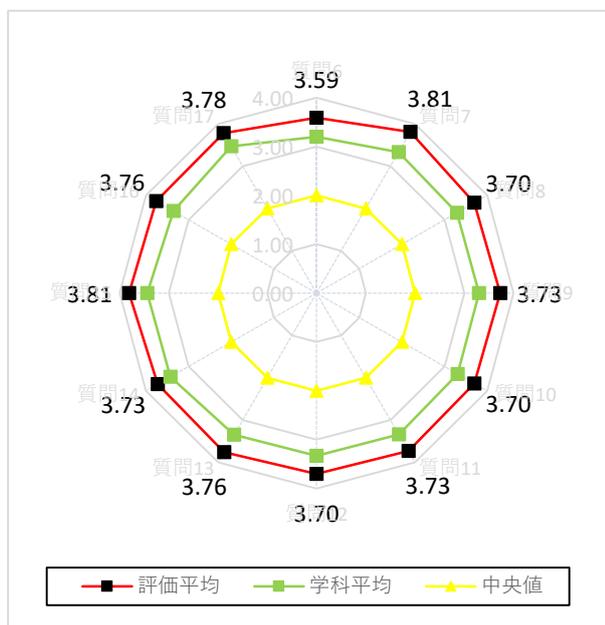
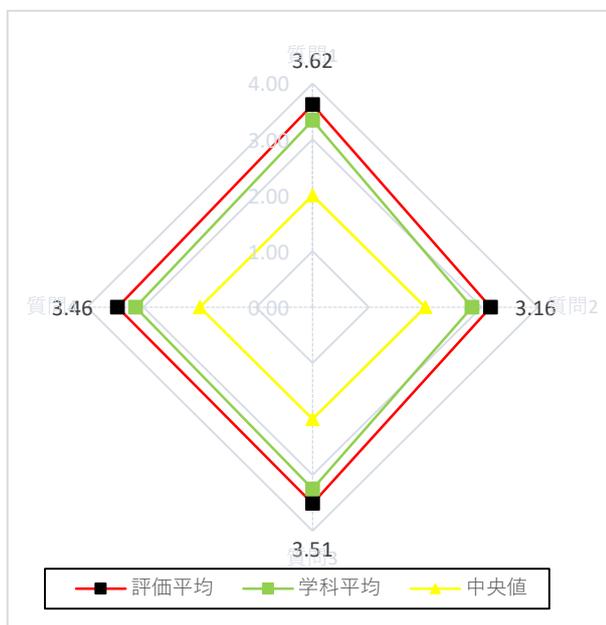
国家試験に向けた対策を行う科目である。  
 今年度の回答率は93%と、前年度と比較し回答率が高かった。  
 アクティブラーニングやグループワークを中心とし、都度、国家試験対策模試を行い評価した。  
 学科平均と近似していた理由は、演習が中心となるため、アンケートの質問項目に対する回答は行いにくかったと考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

国家試験は本専攻所属の学生にとって重要である。  
 学生の国家試験合格率を上げるためにも、本科目の意義を理解し取り組んでもらう。  
 今後も、綿密な対策を講じていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法研究法	44名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

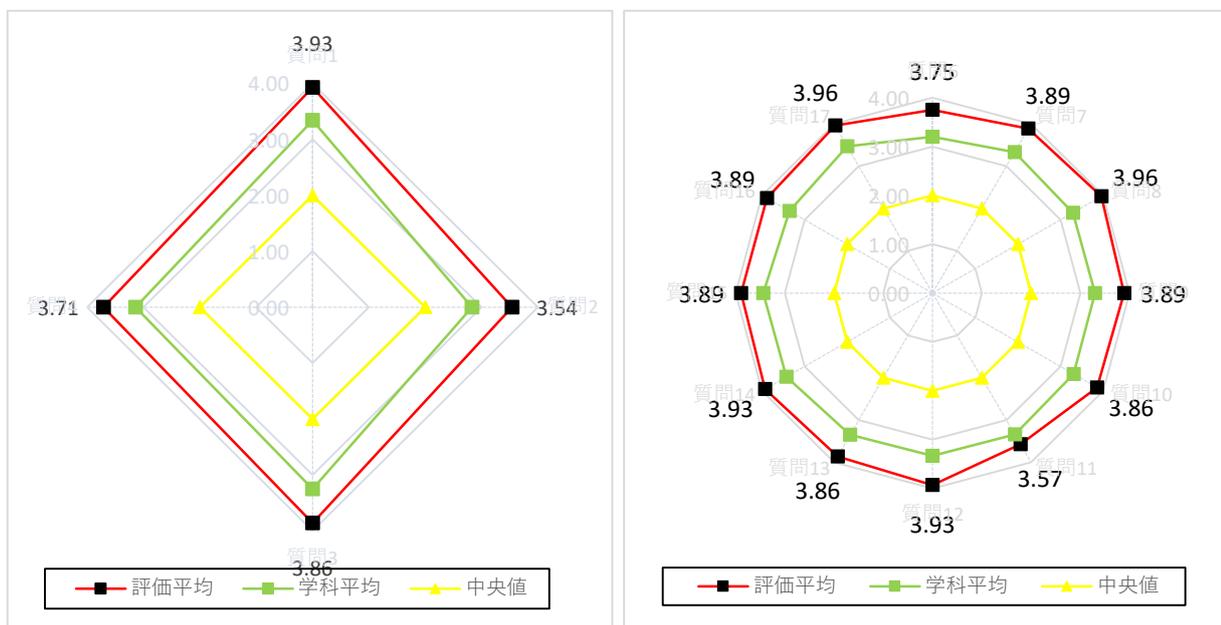
シラバス（授業計画）について説明がありましたか。  
2016年は3.5、2017年は4.0であった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

本年もシラバス（授業計画）について説明をしっかりとしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		基礎理学療法学	39名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

回答率が72% (28名/39名) と低い。

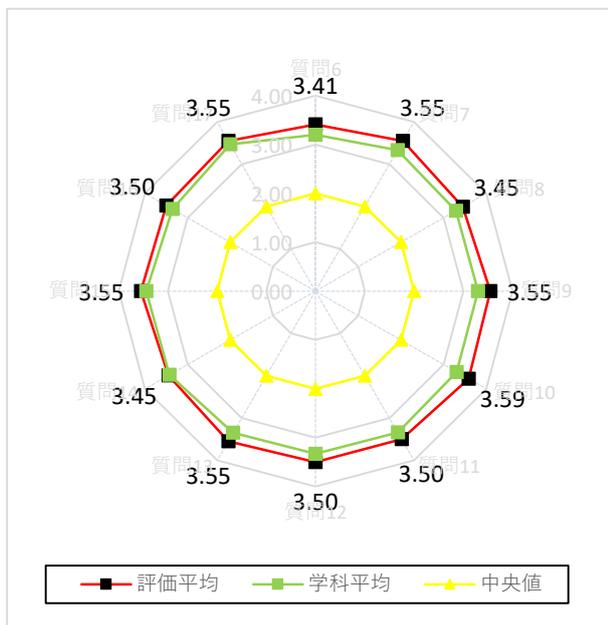
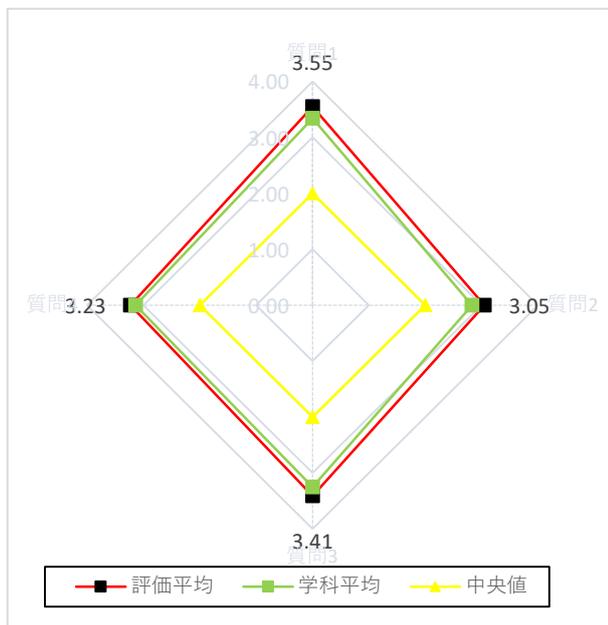
1. 総合満足度 (Q18) で「悪い」, 「やや悪い」と答えたものはいない。
2. Q11: 教科書・配付資料等に「やや不十分」と答えた者が4名。
3. Q16: 双方向的なやり取りを「あまりそう思わない」と答えた者が1名。
4. その他は「良い」, 「やや良い」との回答であった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

2. Q11: 教科書・配付資料等に一部不満が認められるため, 配付資料の充実を図る。
3. Q16: に関しては, 講義時間中にマイクを廻して学生に複数回の発言を促していること, 毎回, 出席カードの代用しているミニツツペーパーに書かれた質問や疑問については次開講の冒頭で時間をとって説明していることからアンケート回答を解釈できない。講義形式を継続して様子を見たい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		園芸論	45名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

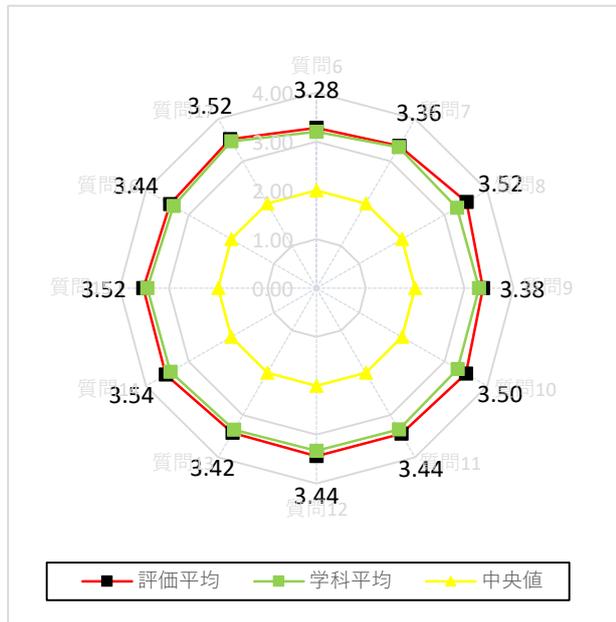
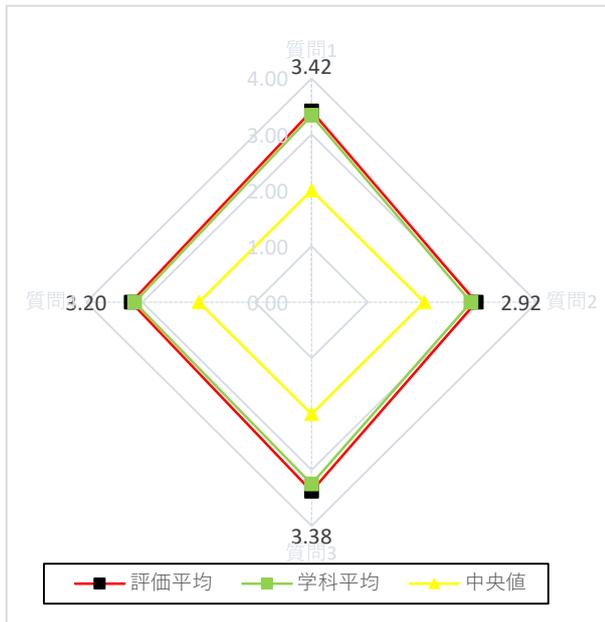
良好

### (3) 次年度に向けての取り組み

さらに工夫を凝らす予定です

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		園芸療法論	57名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

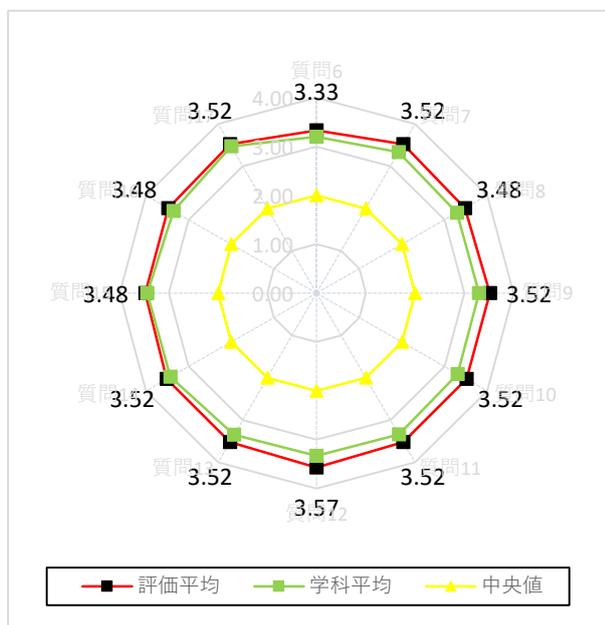
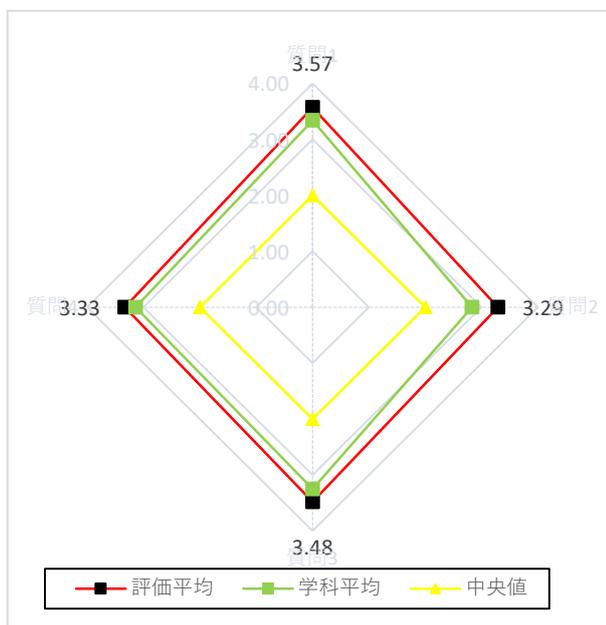
受講者が多い割には良好

### (3) 次年度に向けての取り組み

決め細かな資料を提示したり、よりアクティブラーニングを取り入れる

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		ガーデニング	45名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

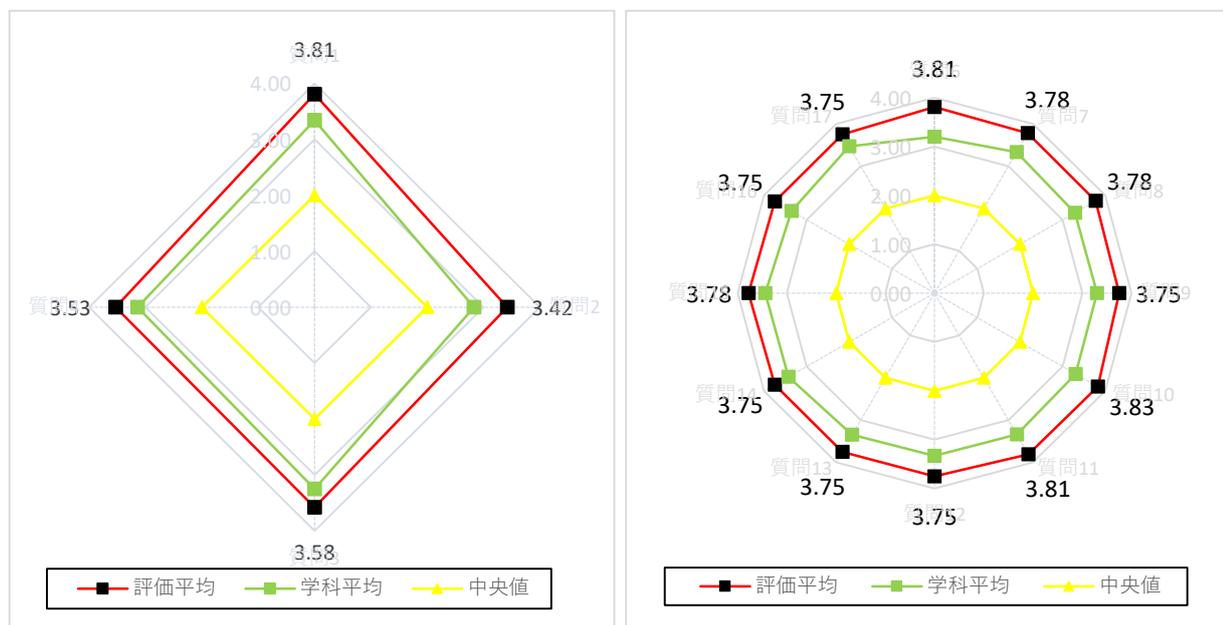
良好

### (3) 次年度に向けての取り組み

継続してアクティブラーニングを取り入れる

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		動作分析演習	42名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

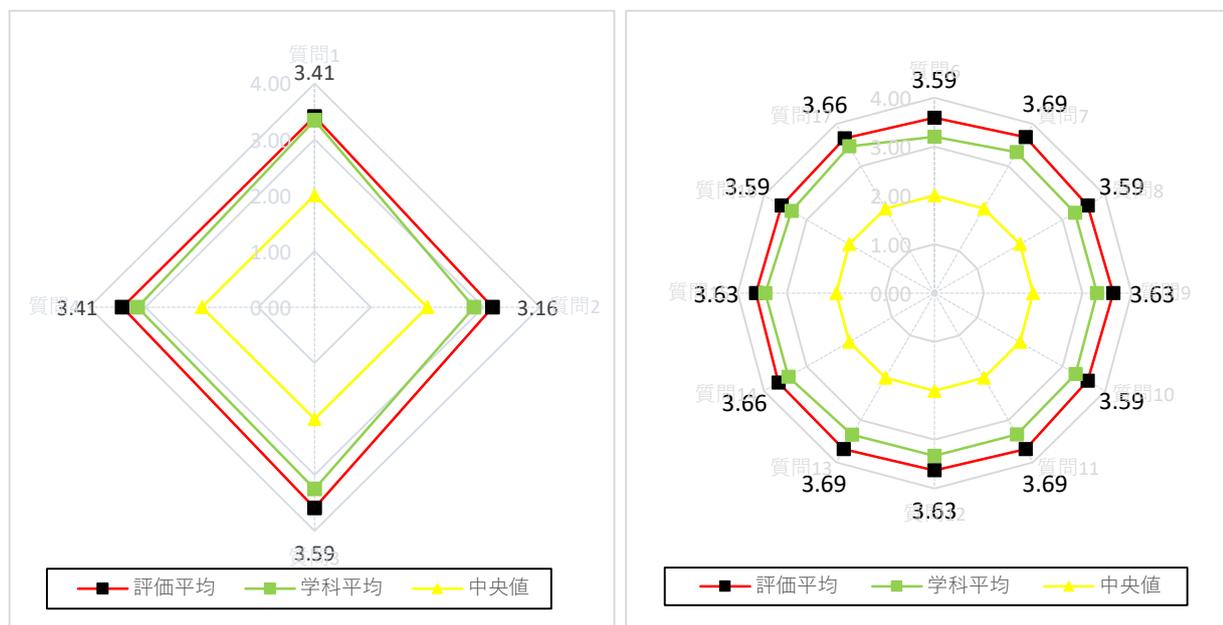
全般的に良好の結果が得られた。  
 質問6から17までに関して、どの質問項目も学科平均を上回ったため、講義手法は比較的に間違っていないと考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、再履修者のみの科目となるが、講義手法をよりブラッシュアップさせ、学生が理解しやすい内容にしたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学 I	52名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

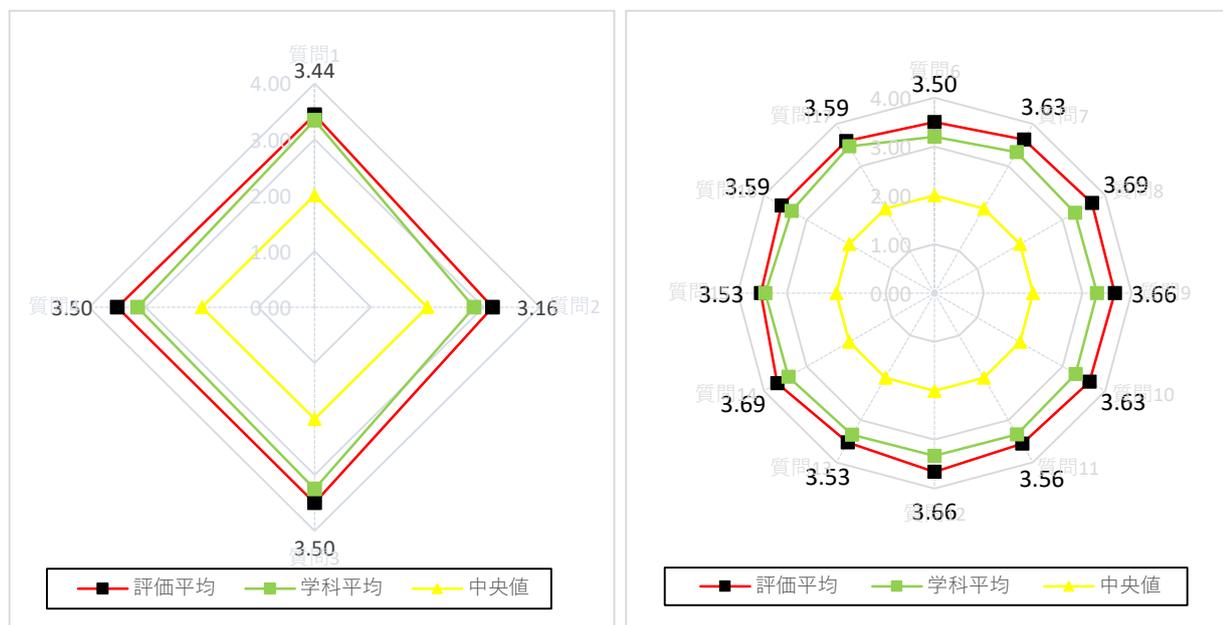
15コマでやるべき項目の多い講義であるが、実技を取り入れながら一つずつの評価項目を確認することで学生の積極的な参加を促すことが出来た。一方、学生の理解・評価修得状況に合わせ講義を進行したため、シラバス（授業計画）通りに進まないことが多く、後期の評価学実習に持ち越した評価項目もあった。実技を取り入れるのにあたり、科目担当以外の先生にも協力いただき、サポートとしてもらったことで学生はその場で疑問点が解決出来ていた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度も実技を取り入れながら、後期開講される評価学実習に繋がるよう進めて行く。今年度は計画したすべての評価項目を講義の中で終わらせることが出来なかったため、授業計画を見直し、学生が復習の際に知識・技術の定着がしやすい課題を検討していく。また専門科目と合わせ修得すべき評価項目に抜けがないよう努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学Ⅱ	50名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

総合評価の結果は、 $3.53 \pm 0.68$  (4点満点)であった。

評価が低かった項目は、質問1の授業の欠席 ( $3.44 \pm 0.98$ 点) や質問2のシバスを活用したか ( $3.16 \pm 0.99$ 点)であった。

評価が高かった項目は、質問8の興味・関心が持てるように工夫されていたか ( $3.69 \pm 0.54$ 点) や質問14の学生の質問に誠実に対応したか ( $3.69 \pm 0.47$ 点)であった。

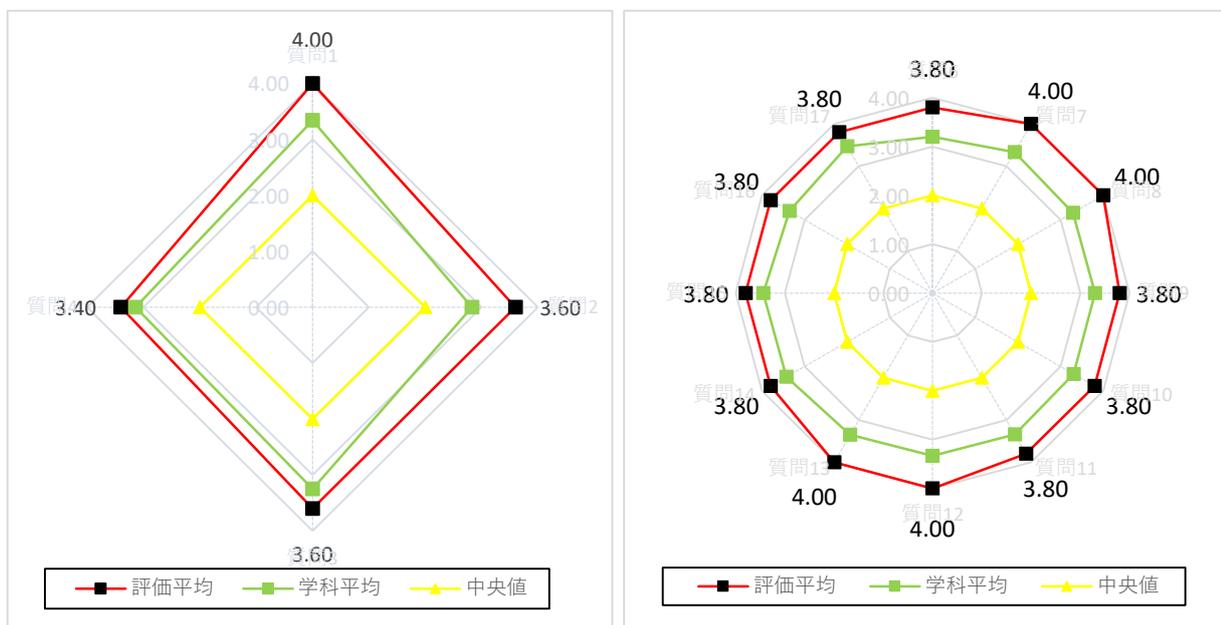
中間調査の自由記述のアンケートによると、実技を交えて講義を行う事や、実技指導を細かく行うことについて高評価を得ている。また、復習用のプリント課題を配布していることで理解を深めることができていた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

中間調査やアンケートの結果から、学生らは、理解度に応じて講義の速度を調整したり、ポイントを丁寧に解説することを求めていることが分かった。実技を交えながら講義を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法評価学実習	47名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

概ね高評価であった。シラバスとは別に授業計画表を用意し、授業の進行状況を毎週学生と確認しながら進めた結果、学生も本科目の学修目標を理解し、見通しを持って自習学習も行えた。授業は実技を中心に進めていった。科目担当2名の教員以外にもフォローに入ってくれる教員がいたことで、学生は疑問点をその場で解決しながら進めることが出来ていた。

総合評価は、 $3.79 \pm 0.46$ 点（4点満点）であった。

評価が低かったのは質問4の授業を理解するために自分で何か工夫をしたか（ $3.40 \pm 0.89$ 点）であった。一方、評価が高かったのは、質問7到達目標、質問8興味関心が持てる工夫、質問12声の大きさ、質問13授業の進む速さ（4.0点）であった。

中間調査で実施した自由記述のアンケートでは、講義中の話し合いや実技の練習ができる、教室に教員が2人いるので質問がしやすいと良好な評価を得られていることが分かった。その一方で、3コマ連続の講義は長い、最後の方は集中力が持続しないなどの問題点も指摘されていた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

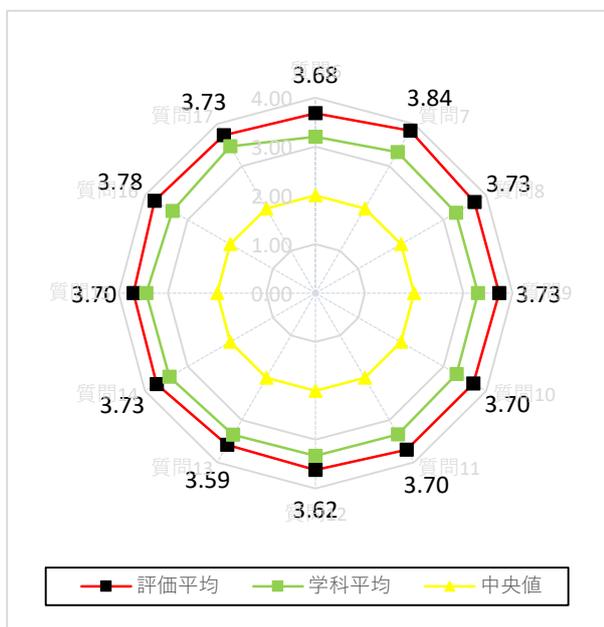
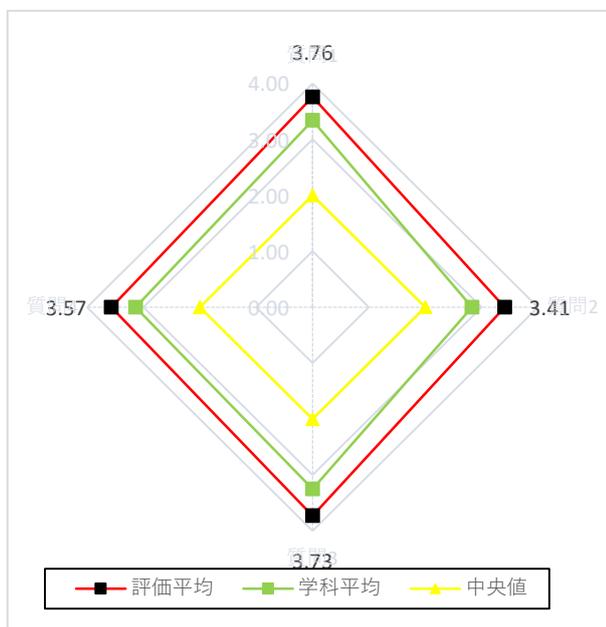
修得すべき内容が多いが、すべて大事な評価である。

しかし、3コマ連続という長時間の講義であることから、学生の理解度・習熟度を把握するための小テストなどを織り交ぜながら、講義を展開したい。

実習科目ではあるものの、講義の中で変化をつける工夫をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動器系理学療法学	44名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

回答率84% (37/44人)。

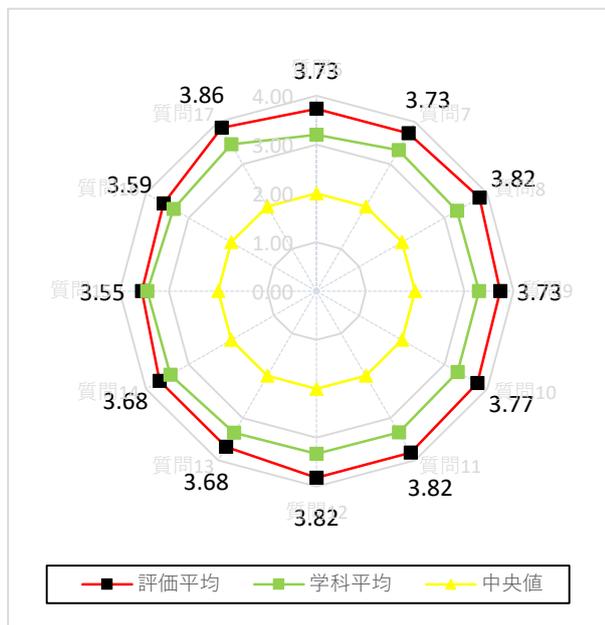
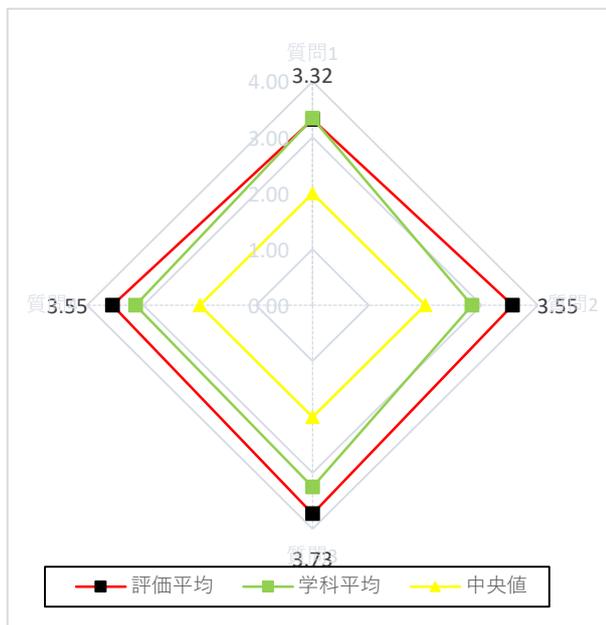
座学のなかでもグループディスカッションを多く取り入れた。教科書の外に、実習で役に立つようにオリジナルのサブノートを作成し配布。臨床により近い講義であったとコメントも見られるように、講義と臨床を切り名はさないように心がけて組み立てた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

ICFのコアセットや診療ガイドライン、サルコペニアなど前年度になかったものを追加したため少し急ぎ足になった。優先順位をせりりして次年度は取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動器系理学療法学実習	41名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

回答率50% (22/44人)。

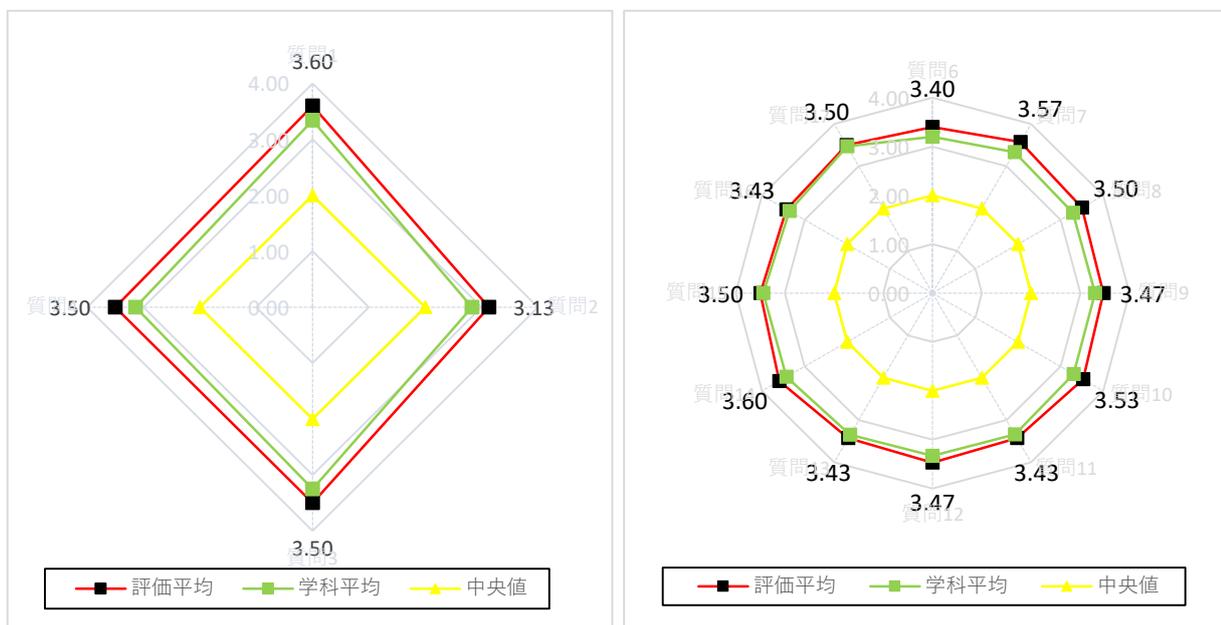
グループワークと多く実施した。双方向のやり取りを心がけた。ディスカッションを多く行いたかったが、論理的思考が身につけておらずティーチングすることも多かった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

ディスカッションするためには基本的知識を身につけておかないと進まないため、整形外科や前期科目の運動器障害理学療法学の復習を課題等で行うべきであったと感じた。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		物理療法学	52名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

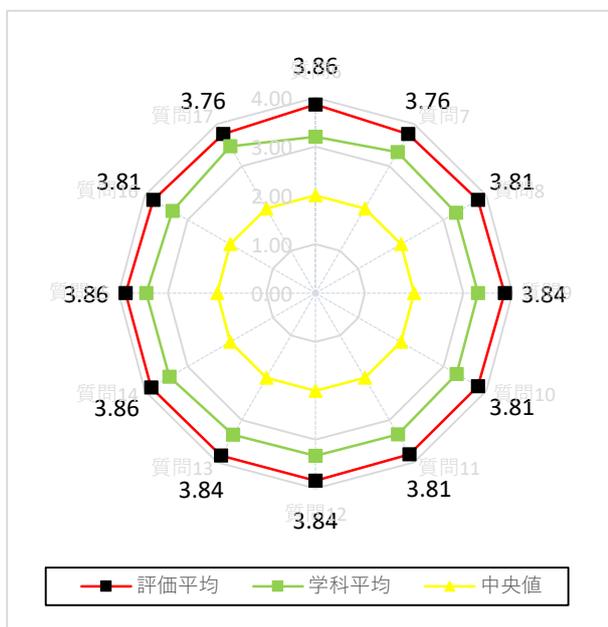
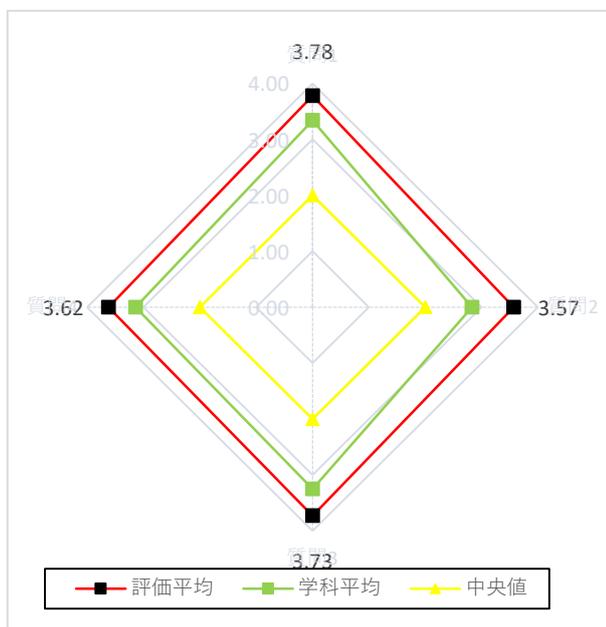
後期の実習を踏まえて、教科書を読んだ後、実際に物理療法学機器を利用して一般的機械の説明を行った。学生の授業評価はほぼ学科平均と重なった。まず機器ありきとなるので、機具の操作を説明し、適応と禁忌を詳細に読みながら授業を進めた。実際に機器を扱うのがポイントだと考えており、これからもこのように進めていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

ほぼ高齢者が対応となるので、機器の取り扱いはもちろん、患者さんとの接し方も念頭に入れながら（現在も行っているが）、物理療法機器をどのように取り扱うのかを講義していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経系理学療法学	44名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

回答率84% (37名/44名) である。

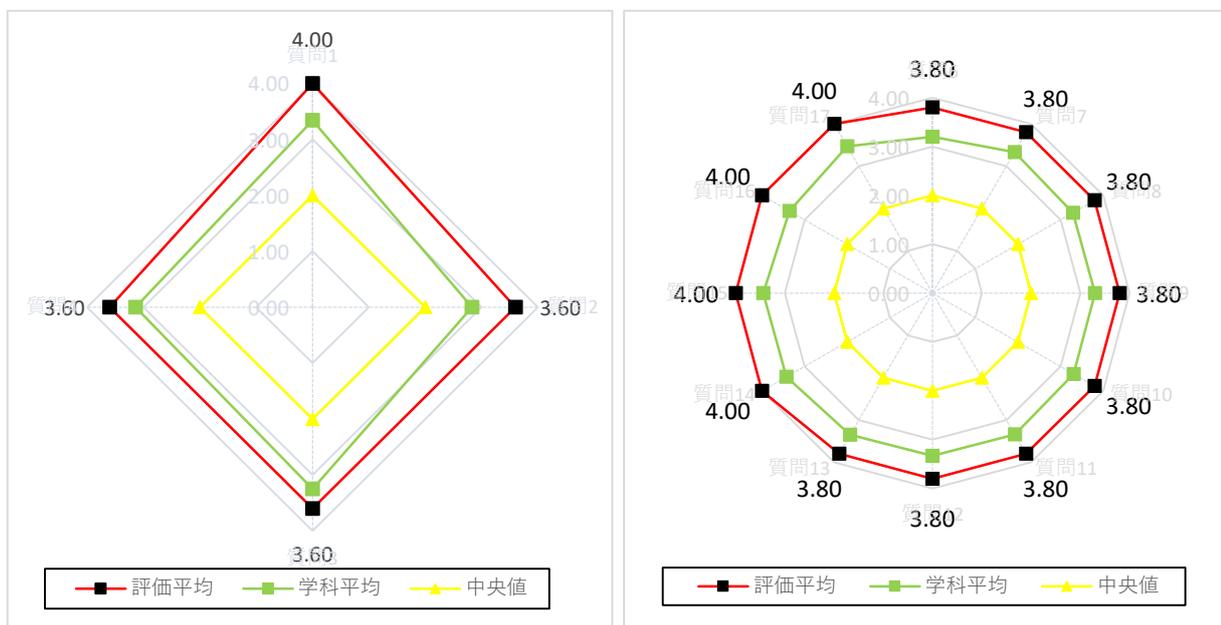
1. 総合満足度で「悪い」「やや悪い」と回答した者はいない。
2. その他の項目、教科書・配付資料等 (Q11) および到達目標の明確さ (Q7) で「やや悪い」と回答した者が各1名認められる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降、科目担当者が交代するため、次期担当者に申し送りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		物理療法学実習	47名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

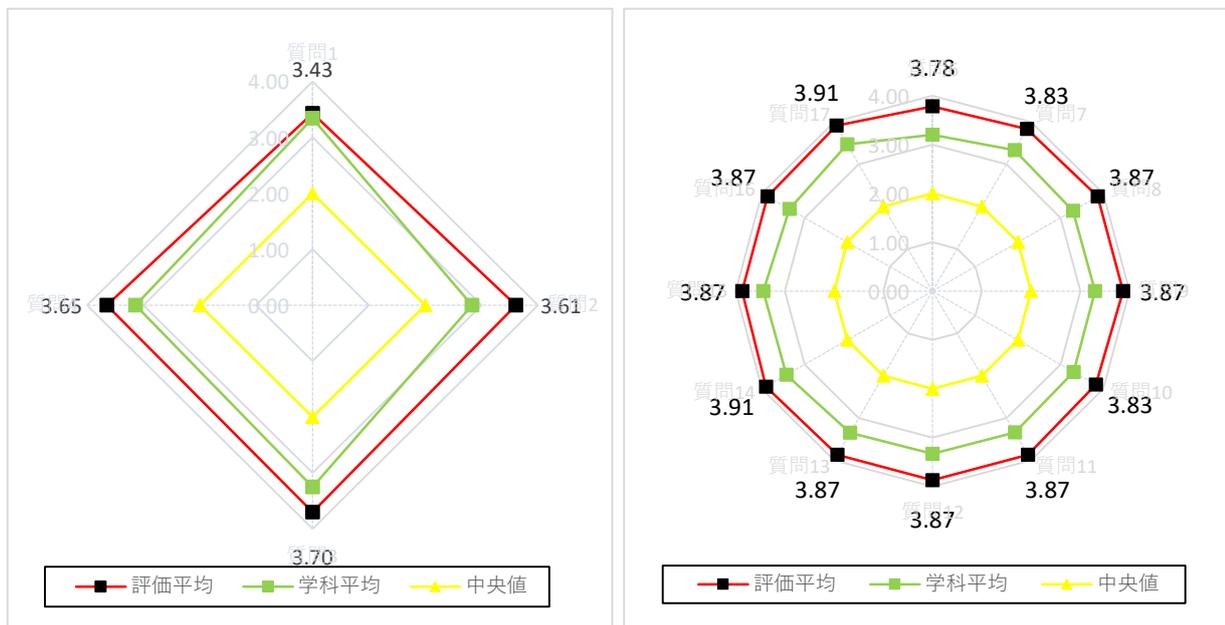
グループに分けて、物理療法を順番にすべて体験させた。あらかじめ担当の物理療法機器を決めさせて、その物理療法機器について記述している論文を図書館で探して、それを読ませて抄録を提出させた。卒業論文の前哨戦ともなり、論文に馴染めることも必要である。担当の物理療法機器についても、レジメを作って発表させた。学生は自由に機器に触れていた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

これからもこのように実習を続けていきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経系理学療法学実習	41名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

回答率56% (23名/41名) と低い。

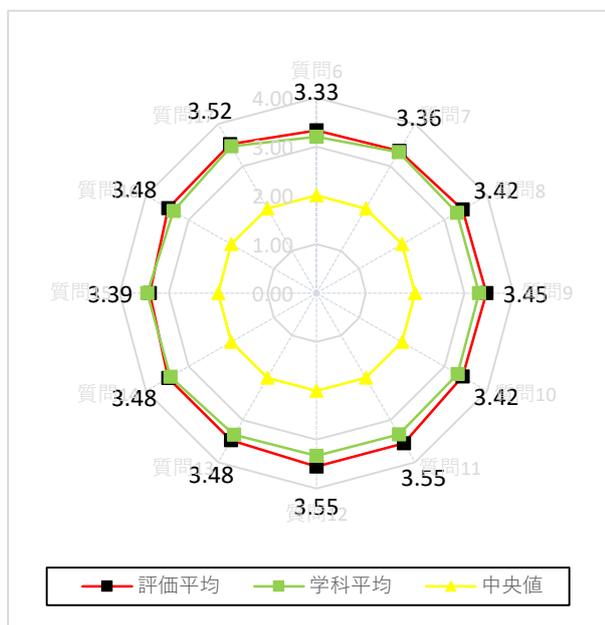
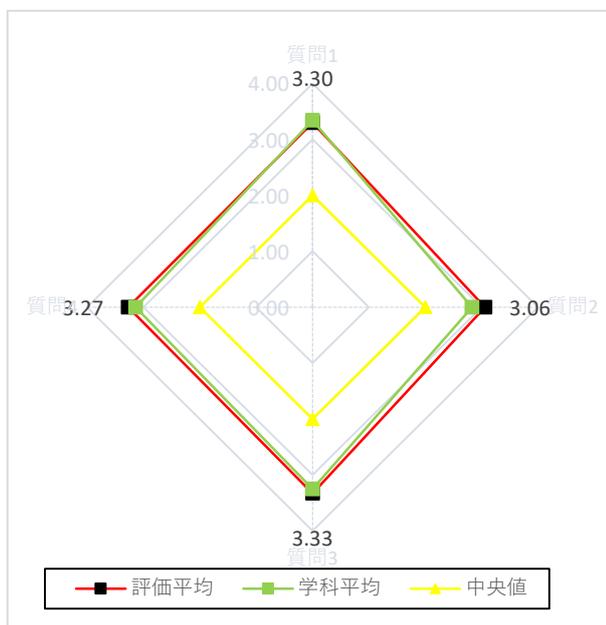
1. 総合満足度で「悪い」, 「やや悪い」と回答した者はいない。
2. その他の項目でも「悪い」, 「やや悪い」と回答した者はいない。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降, 科目担当者は交代するが, 回答率の向上に向け働きかける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動療法学	52名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

回答率63% (33名/52名)。

1. 総合満足度 (Q18) で「やや悪い」3名, 「悪い」2名の回答があった。
2. 他の項目でも「悪い」「やや悪い」が散見される。
3. 特に, 教員の熱意 (Q1) で「悪い」2名, 「やや悪い」1名という回答は看過できない。

### (3) 次年度に向けての取り組み

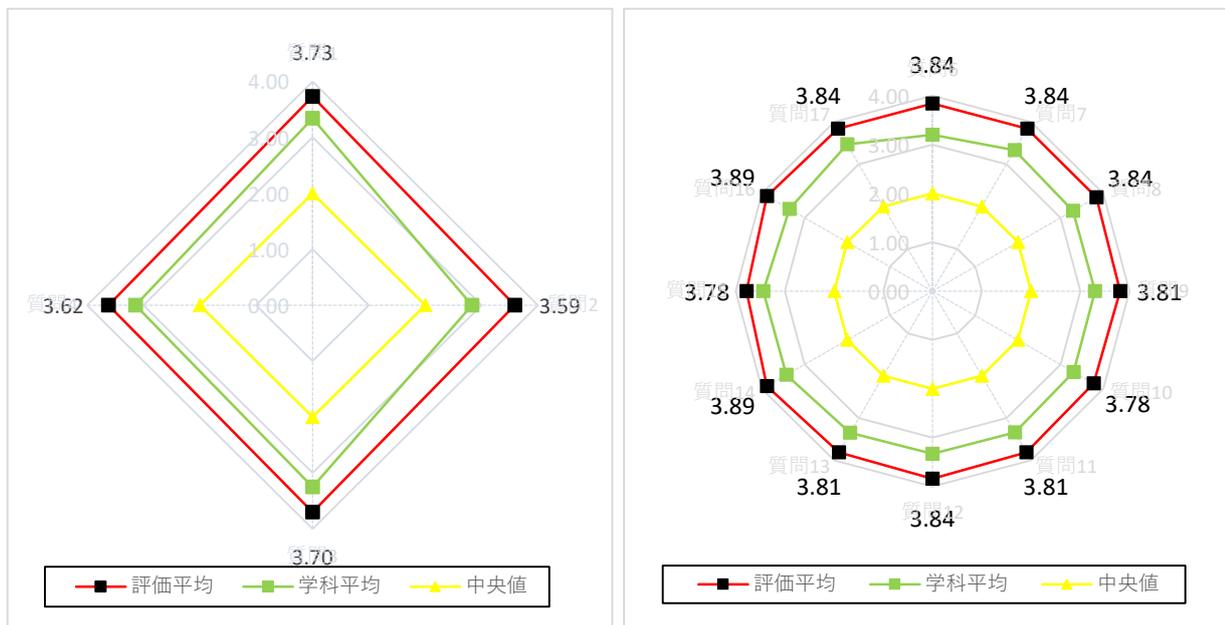
回答率の改善に取り組む。

自由記述に書き込みがないため上記2. 3. の確認ができない。

次年度講義ではその都度, 学生に確認をとりながら総合満足度の向上をめざす。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		脳血管障害理学療法学演習	44名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

回答率は84% (37名/44名) である。

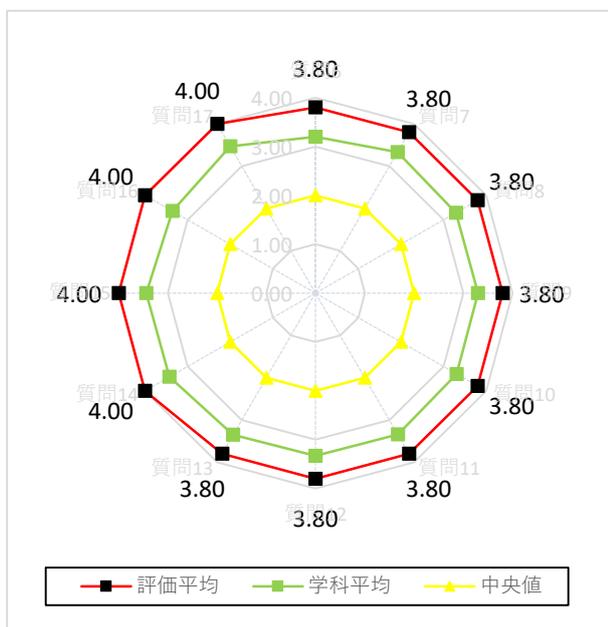
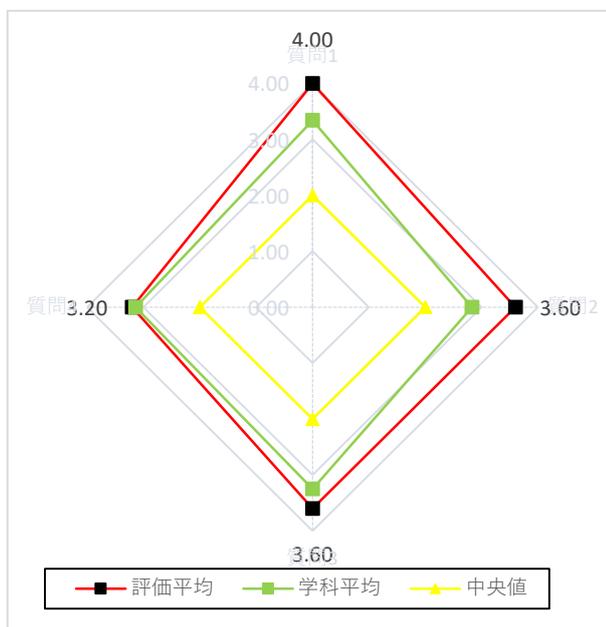
1. 総合満足度 (Q18) で「悪い」「やや悪い」と回答した者はいない。
2. 視聴覚機器や板書の使用 (Q10) で「やや悪い」と回答した者が1名。
3. その他の項目で「悪い」「やや悪い」と回答した者はいなかった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降、廃止される科目である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		運動療法学実習	47名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

回答率11% (5名/47名) .

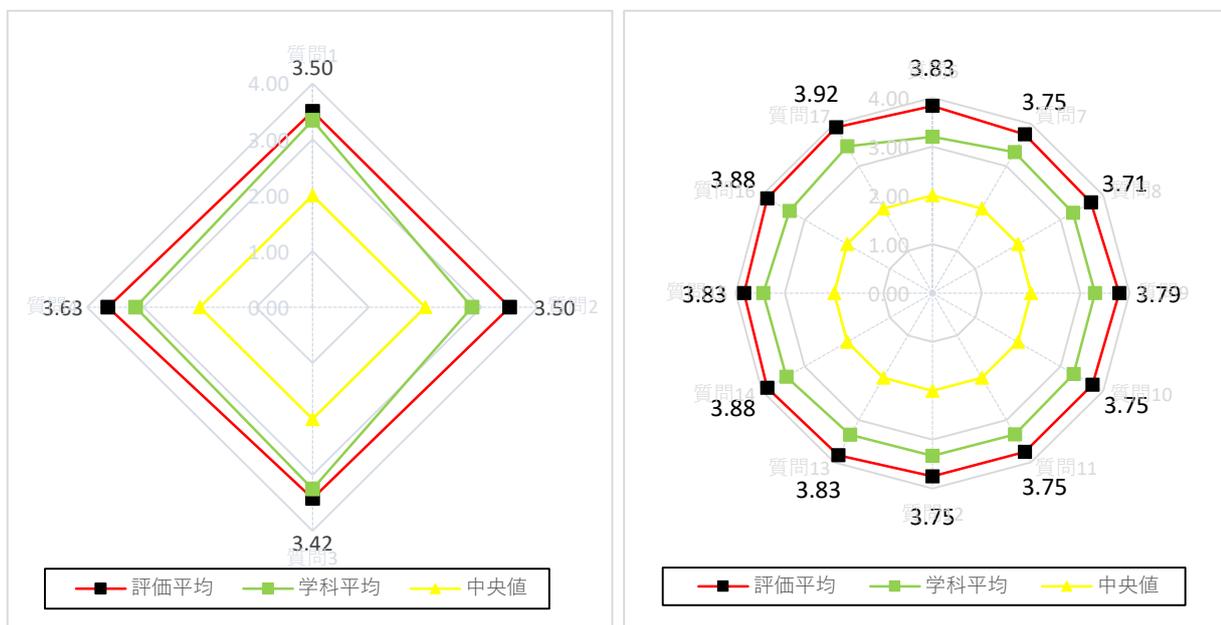
1. 総合満足度で「悪い」, 「やや悪い」と回答した者はいない.
2. 各質問項目で「悪い」, 「やや悪い」と回答した者はいない.

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降, 科目担当者が交代するが, 回答率の改善を図る必要がある.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		神経難病理学療法学演習	41名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

全般的に良好の結果が得られた。  
 質問6から17までに関して、どの質問項目も学科平均を上回ったため、講義手法は比較的に間違っていない  
 かったと思われる。

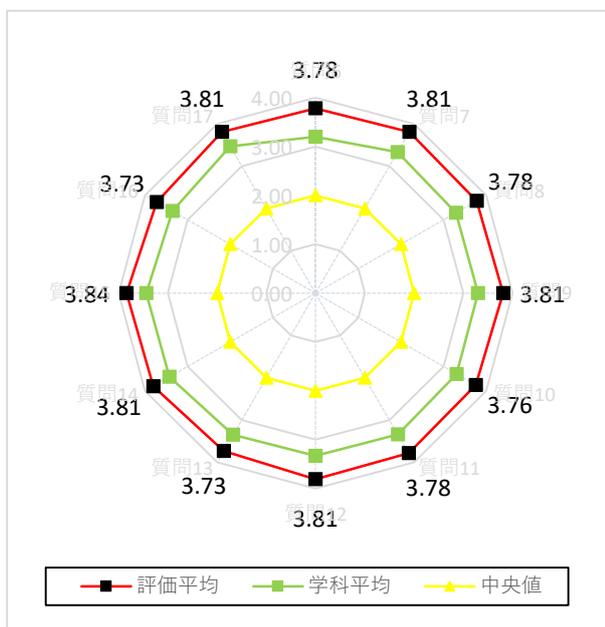
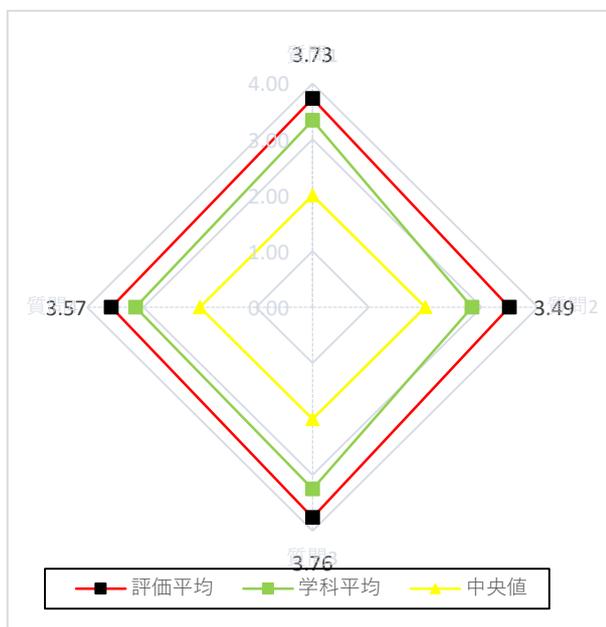
### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、再履修者のみの科目となるが、講義手法をよりブラッシュアップさせ、学生が理解しやすい内容  
 にしたいと考える。

また、本科目は演習であるため、アクティブラーニングを積極的に取り入れていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		内部障害系理学療法学	44名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

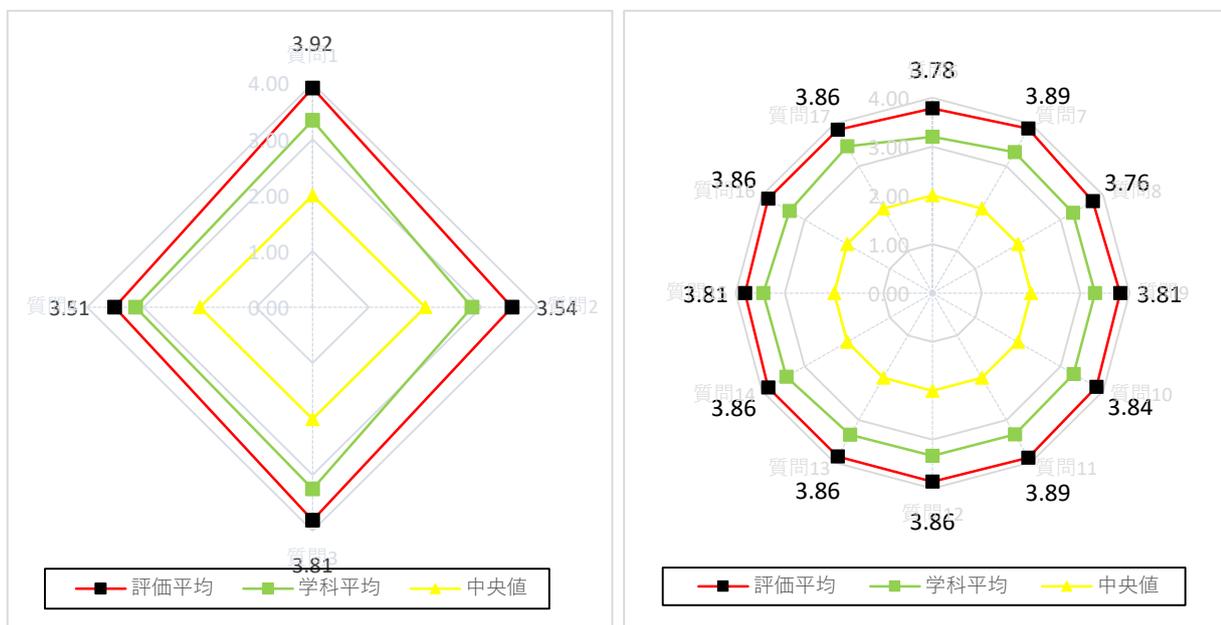
本講義は、理学療法専門領域の中の内部障害疾患について教授する講義である。質問6～13までの平均値は3.79 (3.73～3.84)であり、学科平均と比較すると良好な数値であり、学生からの評価はおおむね良好であったと判断した。講義は板書および視聴覚機材、医療機器、患者体験器材を適宜使用し進行した。なお、医療機器などをを用い講義を行うことで学生の理解度は増したと考える。昨年度のアンケートでは質問13の評価が3.55であったが、今年度は3.73へと改善を示した。

### (3) 次年度に向けての取り組み

内部障害理学療法は、理学療法士国家試験においても重要度が増してきているのは例年の傾向である。今後も最新の知見を適宜入れていきつつも、基礎的知識の修得を目指す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		発達系理学療法学	44名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

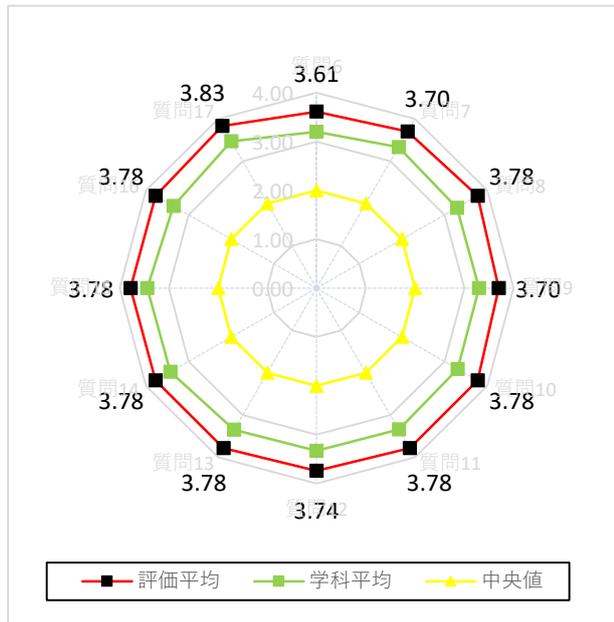
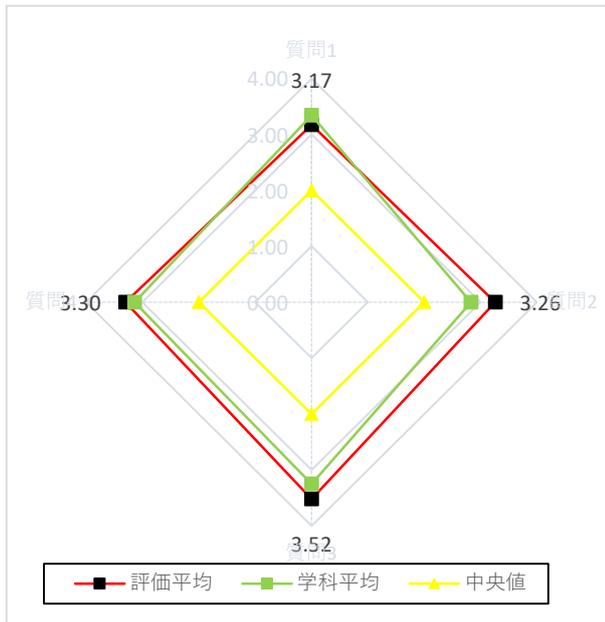
概ね高評価が得られた。発達分野の理学療法については本科目ですべての範囲を網羅する必要があるため、国家試験出題範囲と照らし合わせながら、漏れのないよう授業計画を組んでいる。また実際に幼稚園に協力いただき、学生が普段接する機会の少ない就学前幼児の発達を実際に見る機会を設けることで、学生が子どもの理学療法にイメージ出来るように努めた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度も引き続き、幼稚園に協力いただき、健常児の発達を知る機会を設ける。また発達障害について理学療法士も関わるが増えてきおり、授業計画の中に入れ理解を促していく。時間的制約はあるが、疾患の理解だけでなく、患児や保護者への具体的介入についても具体的な例を示しながら伝えていくよう心がける。また別途、発達分野に実習や就職を希望する学生には授業外の時間を使って学修支援を行ってきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		老年期理学療法学	41名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

質問1

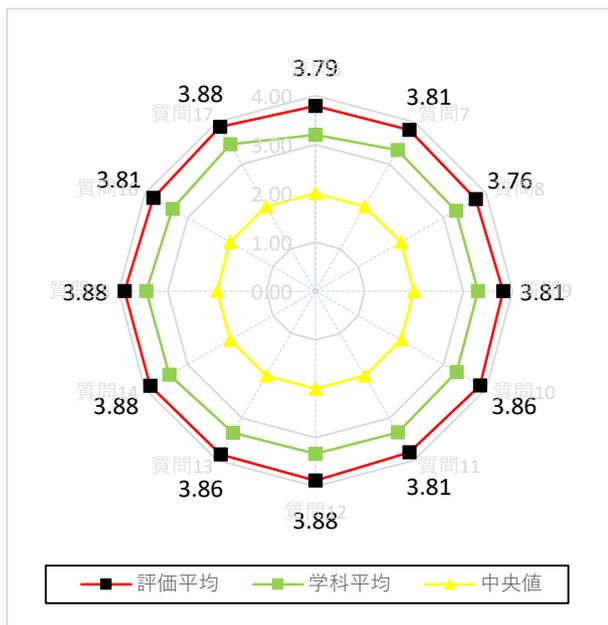
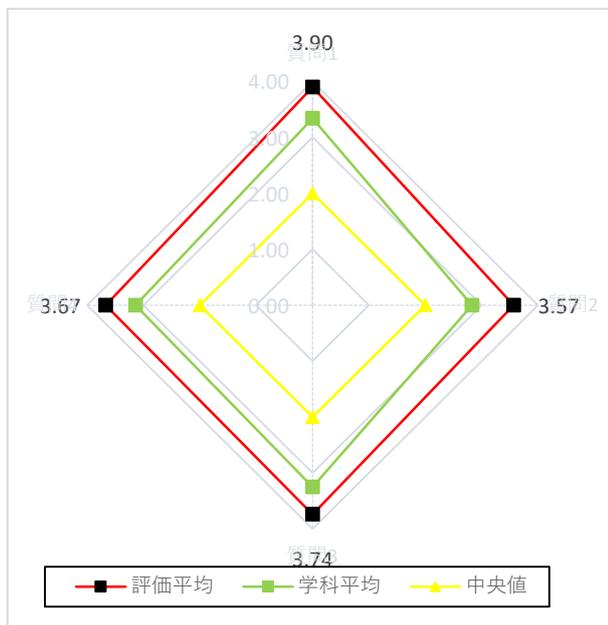
授業は何回欠席しましたか。  
学科平均を下回った。

### (3) 次年度に向けての取り組み

しっかりと出席をとり欠席させないようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		義肢装具学	92名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

回答率5% (5名/92名) と極めて低い。

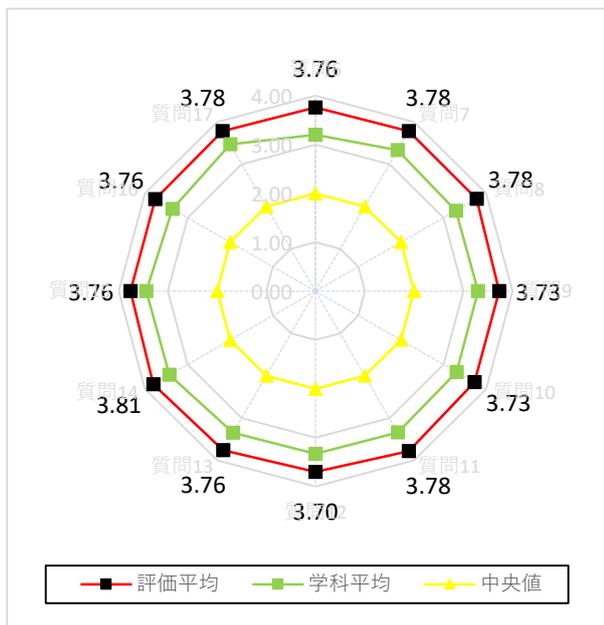
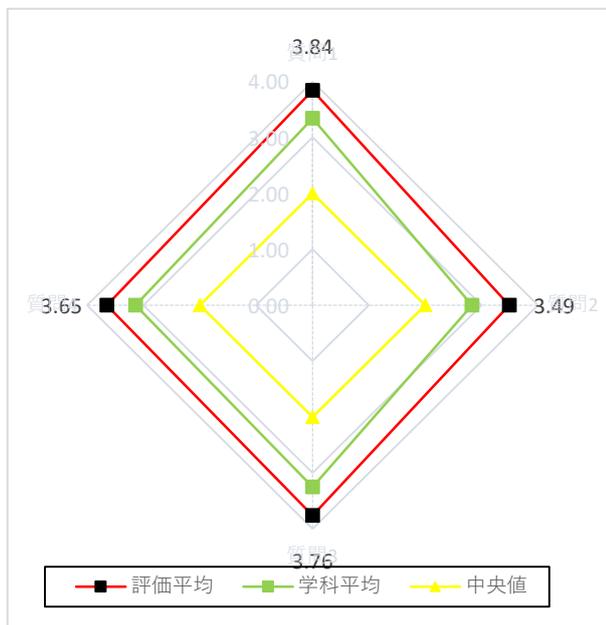
1. 総合満足度は全員が「良い」と回答している。
2. その他の項目でも「悪い」「やや悪い」と回答した者はいない。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降、受講学生は1クラス（概ね40名）となる。アンケート回答率を改善すべく働きかける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		スポーツ外傷理学療法学演習	44名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

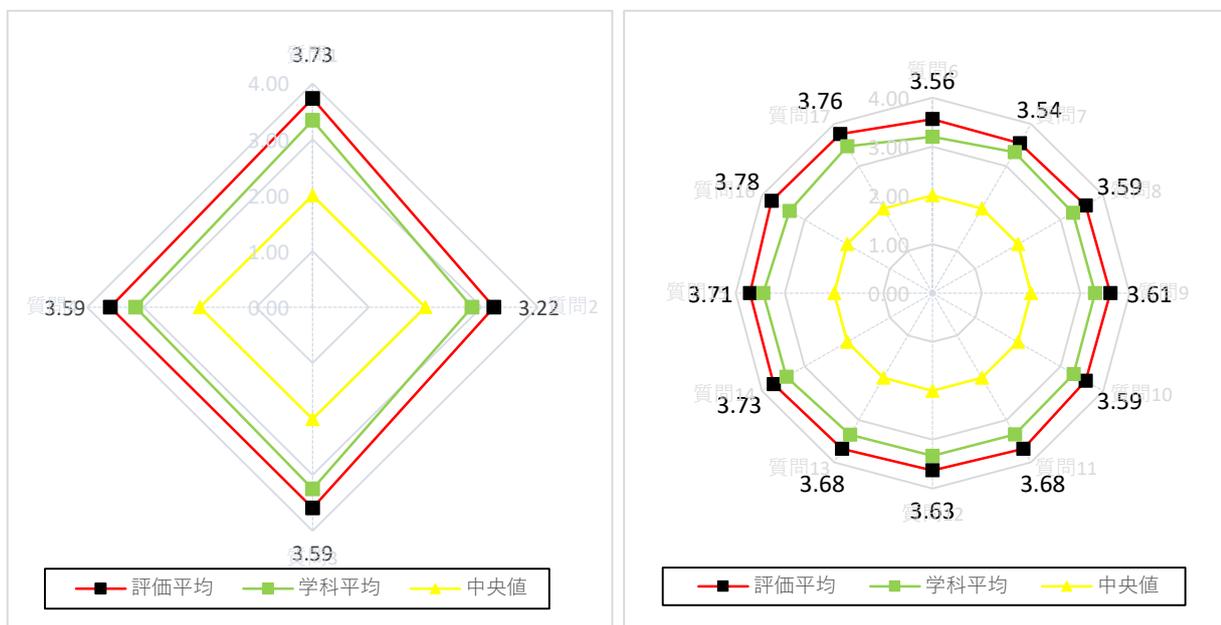
回答率 (84%、37/44人)。  
 時事問題も問い入れつつ、講義をおこなった。また運動指導も必須のため実際に始動できるように実技も多く取り入れ講義を実施した。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度はカリキュラム改変で開講なし

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		理学療法技術学	43名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

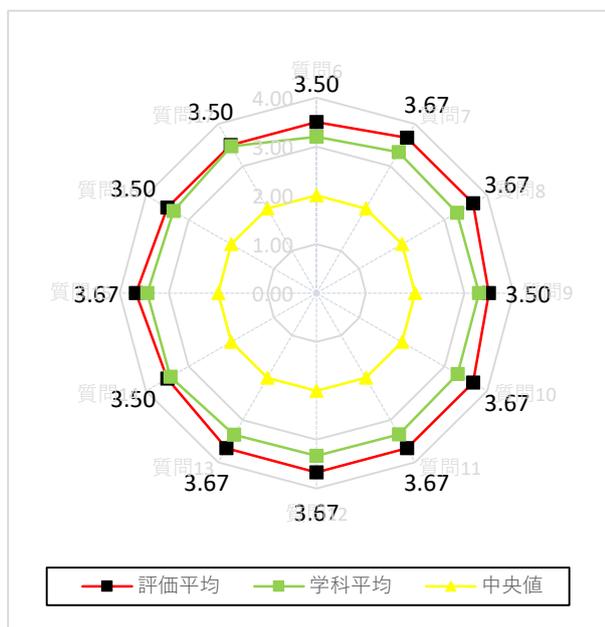
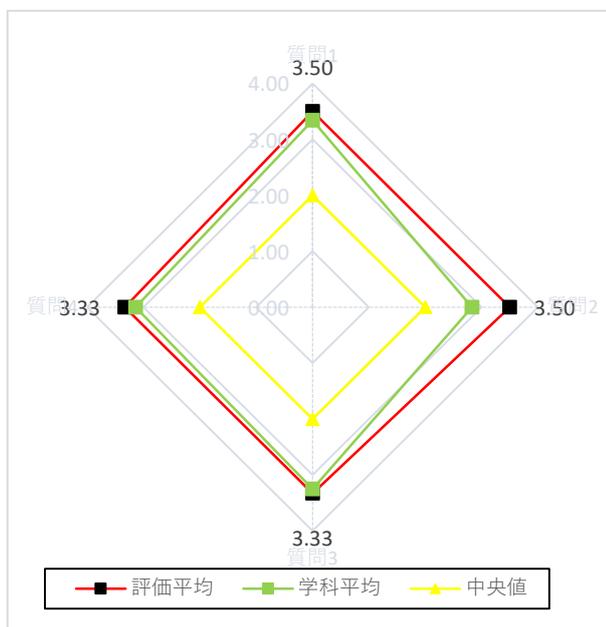
オムニバスの科目であるため、学生は授業評価しづらかったと思われるが、学科平均を上回る結果であった。  
トピックスの内容であったが、国家試験対策に繋がる内容の講義であったため、良好の結果が得られたと思われる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、講義手法をより進化させ、学生が理解しやすい内容にしたいと考える。  
また、講義は専門性を生かした国家試験対策となるような内容にしたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		日常生活活動学	48名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

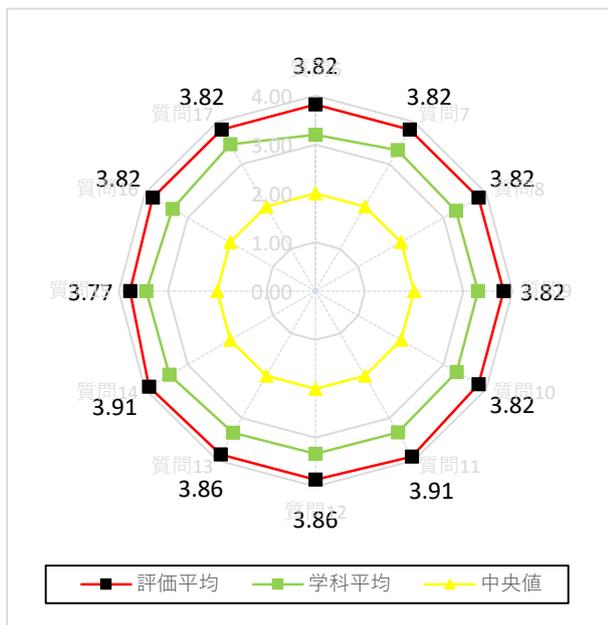
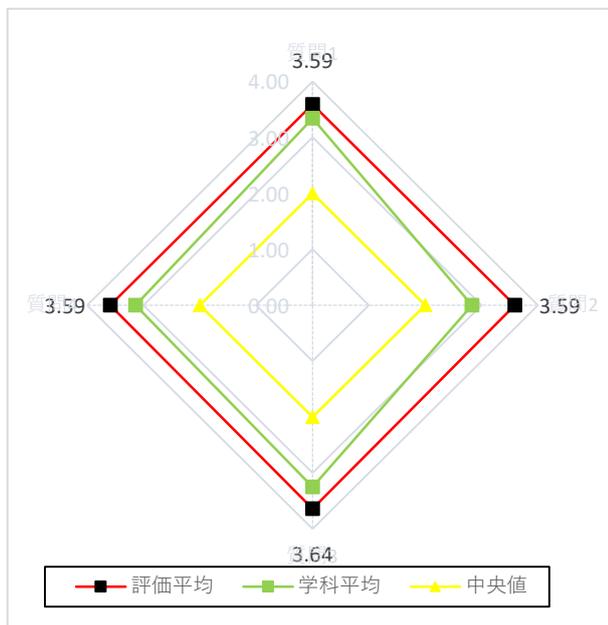
講義科目であるが、適宜デモや実習を取り入れており、学生は積極的に授業に取り組んでいると思われる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

実習に積極的に取り組めない学生に対して、数回声かけをしても実習に取り組まないとなつていってしまうが、次年度は諦めずに声かけをし、全員が積極的に実習に散り組む雰囲気にしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		切断と脊損の理学療法	41名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

回答率54% (22名/41名) と低い。

1. 総合満足度で「悪い」「やや悪い」と回答した者はいない。
2. その他の項目でも「悪い」「やや悪い」と回答した者はいない。

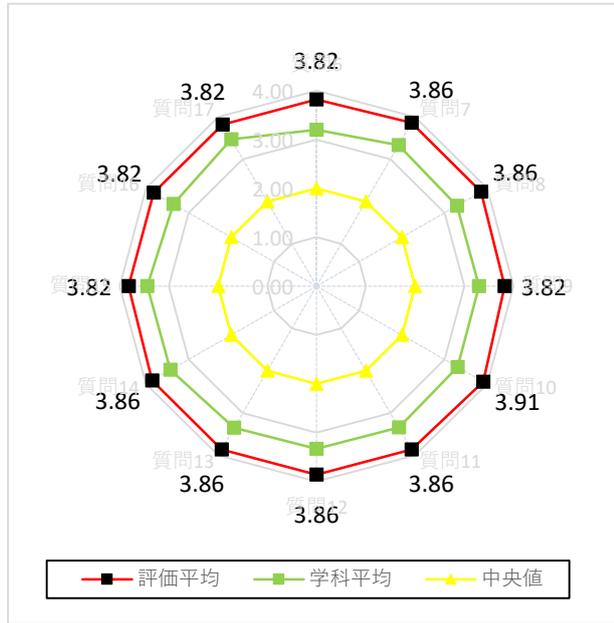
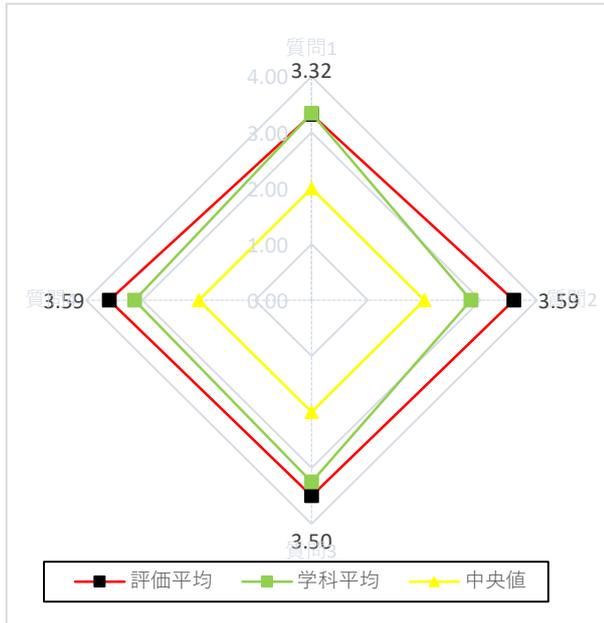
### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降、廃止される科目である。

再履修者に対しても今年度同様、丁寧な講義を実施する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		地域理学療法学	41名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

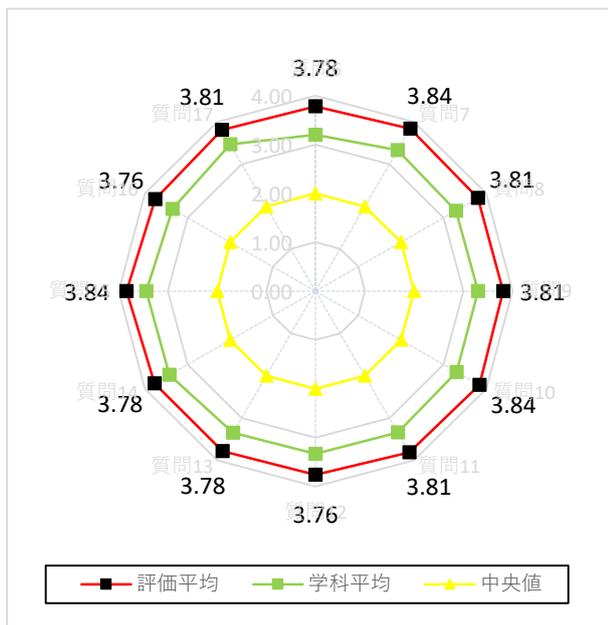
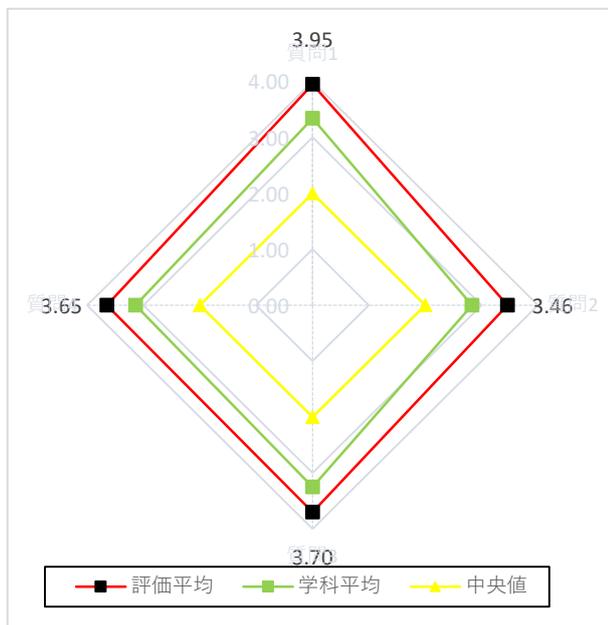
質問1から17までどの項目も学科平均を上回る。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今年度も、座学以外に臨床ネタを盛り込み学生の興味が増す授業を試みる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		生活環境論	42名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

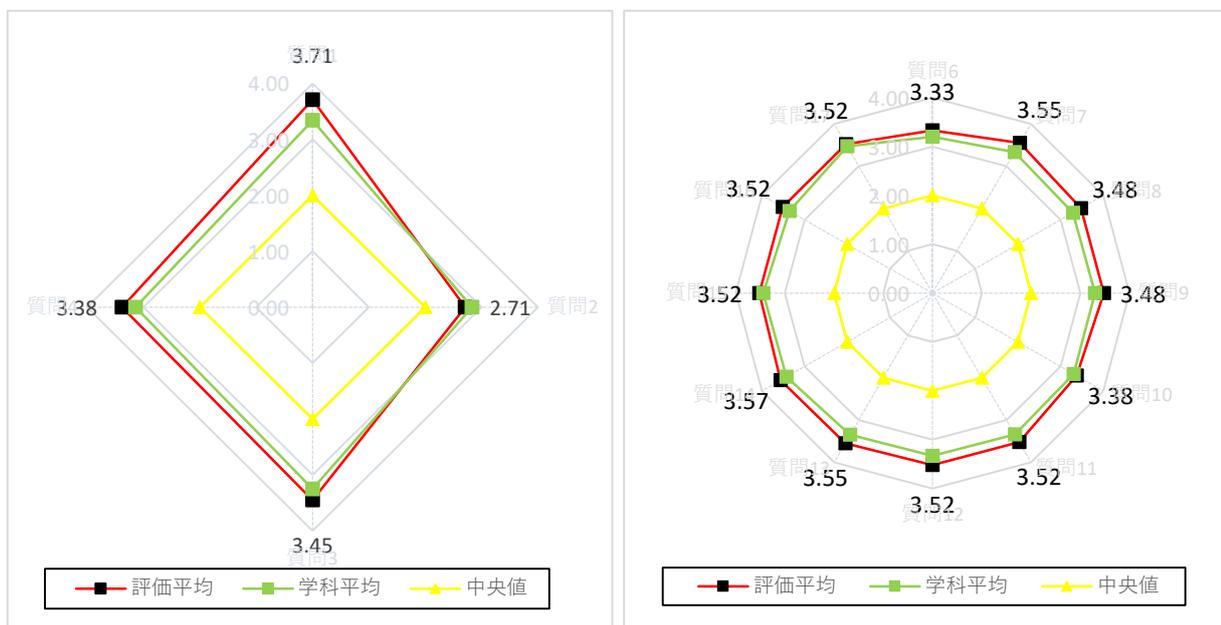
本科目も学科平均を上回った。

### (3) 次年度に向けての取り組み

地域理学療法学同様に臨床ネタを取り込んだ授業をする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		総合実習 I	48名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

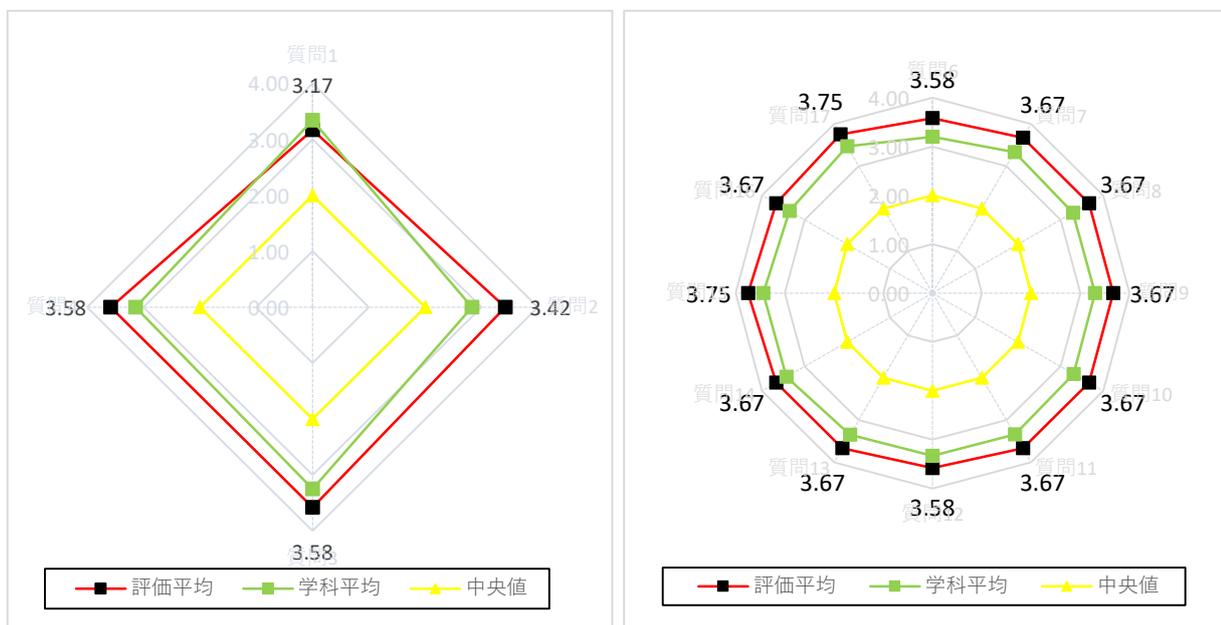
評価実習終了後からオスキーに向けてホームルームなどで指導を行った。オスキー終了後には補習を行い、総合実習に向けて備えた。また実技の練習に併行して国家試験問題などを使用し、疾患の理解に努めるような働きかけを行った。ホームルームでは総合実習に向けて生活面などの指導も行った。シラバスの利用は少ない結果であるが、総合実習については別途学科で準備している実習の手引きを用いて実習の流れについては説明を行っている。実習中は、PT教員で実習訪問を行い実習が円滑に進むようフォローしている。学生も7週間意欲的に取り組んでいた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

実習中も訪問や学内での指導など担任・ゼミ教員でフォローし、全員が実習を終えることが出来た。実習指導者から頂いた意見を参考にしながら、低学年のうちから基礎知識の修得、医療人としての心構えを身につけられるよう支援していく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		評価実習	39名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

学外の病院や施設にて、指導者の管理・指導のもと症例を担当し、理学療法評価を行い、その症例に適したゴール設定、プログラム立案までを行う。さらに、それらをもとに大学に帰ってきてセミナーを行うことで様々な疾患の情報を共有する実習である。

今回のアンケートの回答率は30%と低かったため、全体を反映できているかは不明であるが、質問6~17において、回答した学生全員が選択肢3または4を選んでおり、良好な評価であった。

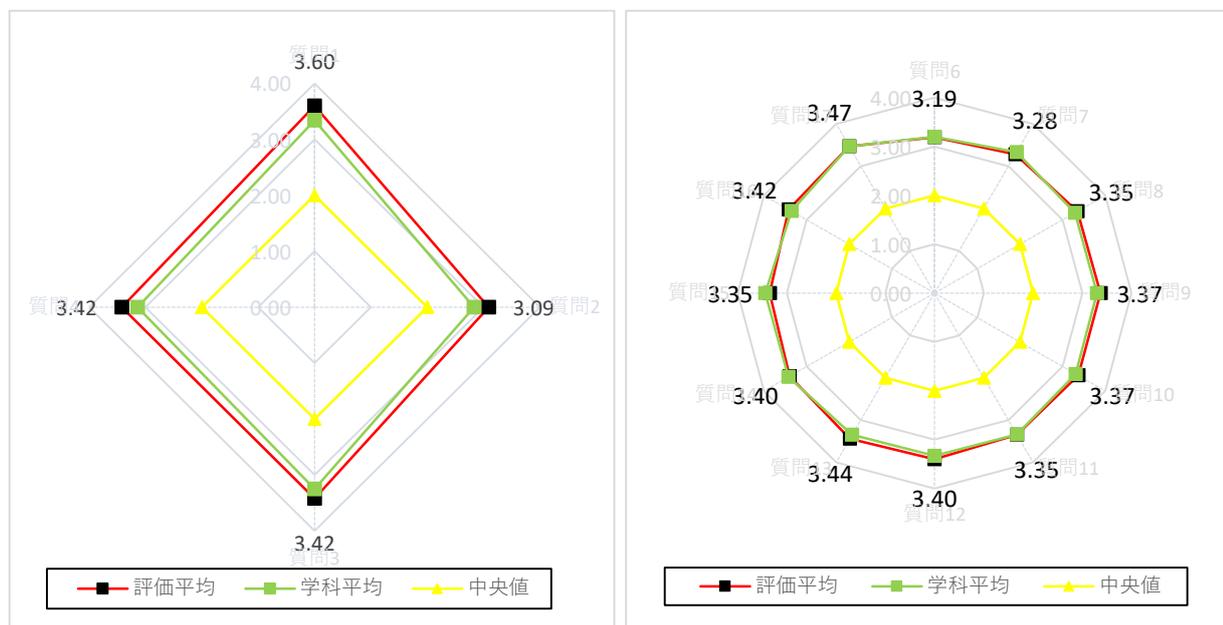
この要因の一つとして、学外の指導者が学生に対して真摯な姿勢で指導を行ってくださったためと考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

当該学年は4月から長期の臨床実習に臨んでいる。今回得た経験を踏まえ、医療専門職としての基礎を築いていってもらう。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		総合実習Ⅱ	49名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

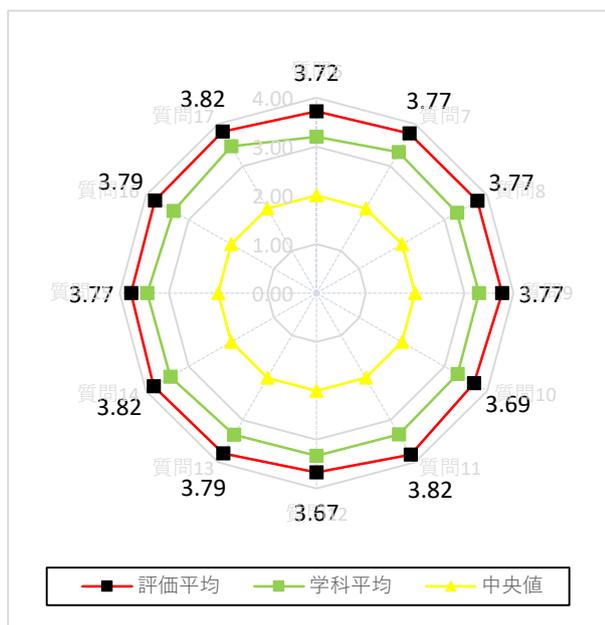
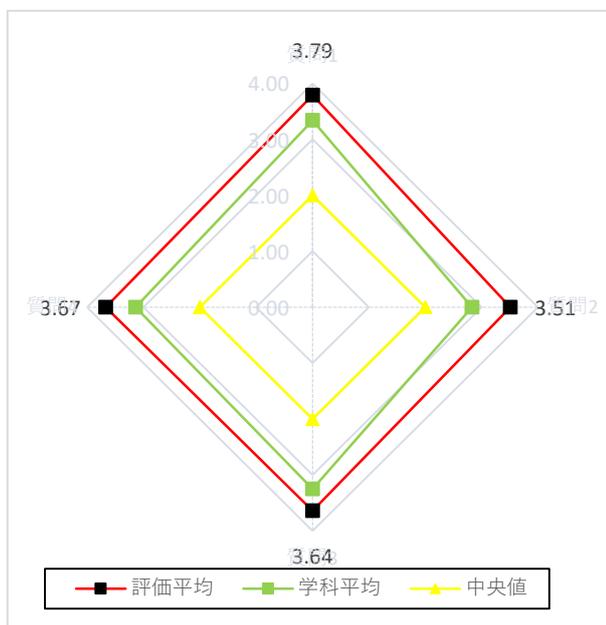
4年間総まとめとなる総合実習Ⅱに向けて総合実習Ⅰ終了後にセミナーを行い、クラスメートが担当してきた症例をもとに意見交換を行った。シラバスについては総合実習Ⅰ前に総合実習Ⅱを通して説明しており、総合実習Ⅱ前には説明をする時間を取ることが出来なかった。実習期間中も訪問時や時間外も担任・ゼミ教員で相談に乗りながら、有意義な実習が送れるよう支援した。

### (3) 次年度に向けての取り組み

総合実習ⅠからⅡまでの2週間で総合実習Ⅰの反省点を踏まえ修正していくのは大変であるが、必要な学生については個別に面談・指導する機会を設け、総合実習Ⅱが円滑に進むようフォローする必要が次年度以降もある。特に実習でつまづく学生をいかに実習地の先生と一緒に支援していくかが課題である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		卒業研究	41名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

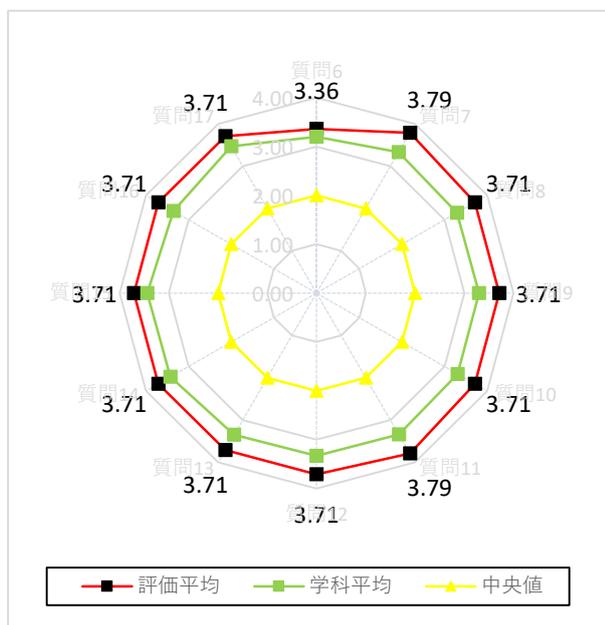
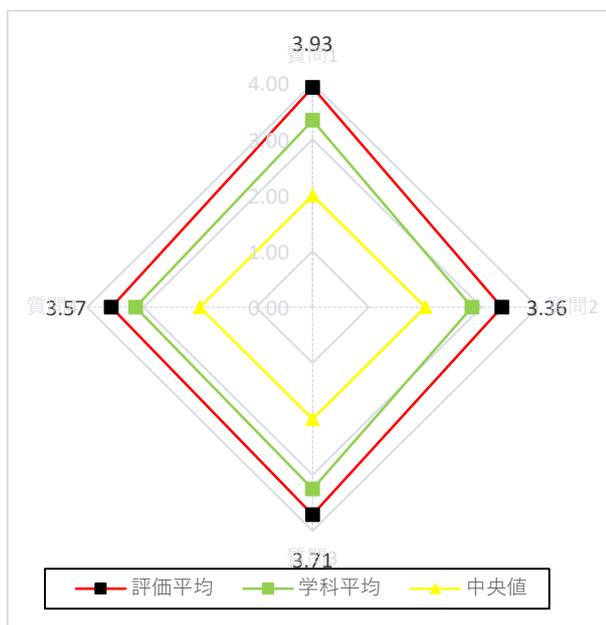
概ね平均点を上回っている。

### (3) 次年度に向けての取り組み

出来るだけ早く研究に取り掛かり、余裕を持って作成できる環境を提供したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習 I	39名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

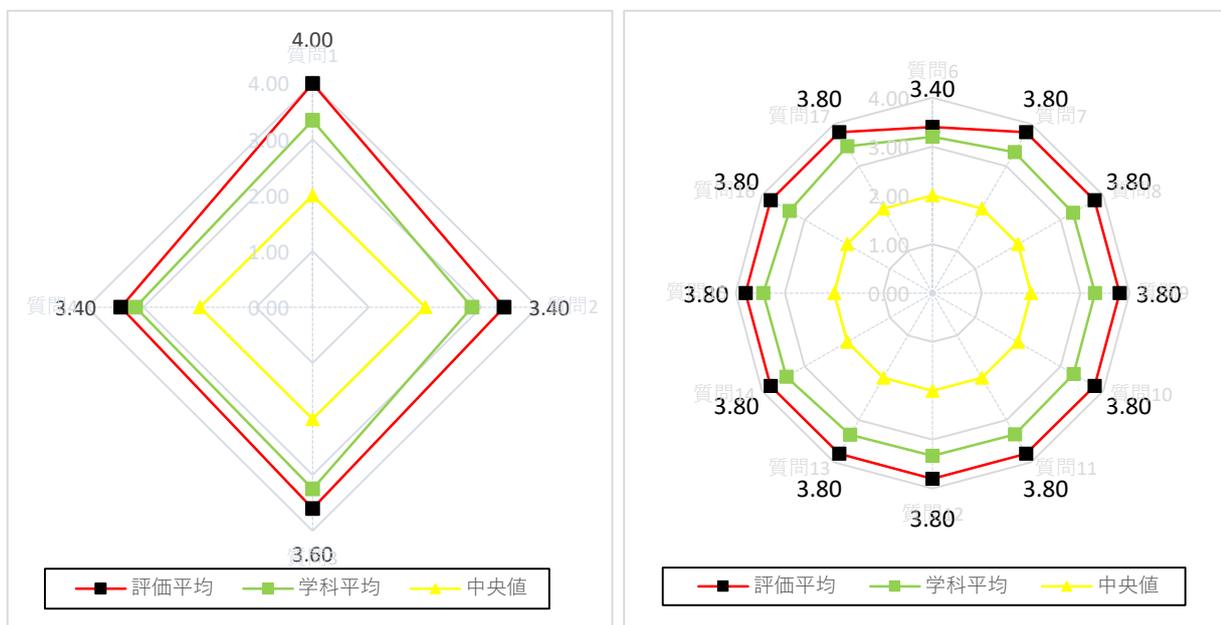
ホームルームで実習に向けてのオリエンテーションをした。

### (3) 次年度に向けての取り組み

実習2もホームルームで実習に向けてのオリエンテーションを徹底しておこなう。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
リハビリテーション学部	リハビリテーション		臨床実習Ⅱ	47名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

質問6に関しては、実習に向けてのオリエンテーションを繰り返し実施し、伝えてきたつもりであるが、学生には十分には伝わっていないようである。今後はホームルームの欠席者に対する対応が必要と考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

3年次の臨床実習Ⅲは実際に患者さんを担当することになるので、学生の意識も2年次とは大きく変わってくると期待している。学生の興味を引き出せるよう、空きコマを有効利用して十分な準備をして実習に臨ませたい。